

智頭町内に財をもつ智頭町外在住者向け

「土地・家屋の管理と生活についての調査」 報告書

■調査について

先日は調査へのご協力をいただきありがとうございました。

本調査は、智頭町に財をご所有の方々が管理する田、畑、山林、家などに関することや日常の生活に関する考え方などをお伺いし、農地・山林・家屋の管理に関する施策に役立てる目的で実施しました。調査の結果、智頭町に財を所有する方々の財に関する様々なことが分かってきました。

■調査概要

対象者

智頭町に財をご所有で、かつ智頭町にお住まいではない方 520 名を対象としています。

調査実施日

520 名に対し、郵送により調査票をお送りしました。

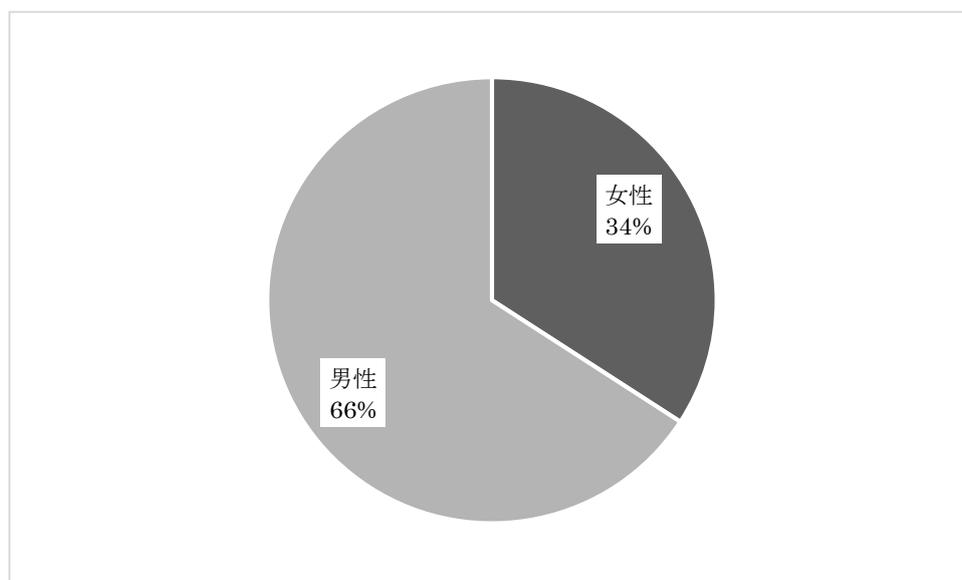
6 月 30 日に発送し 7 月 15 日を回答期限として調査票を回収しました。

回収数・回収率

520 名からの回収数は 280 票、有効回収率は 54%となっております。

調査へのご協力をいただき誠にありがとうございました。重ねて御礼申し上げます。

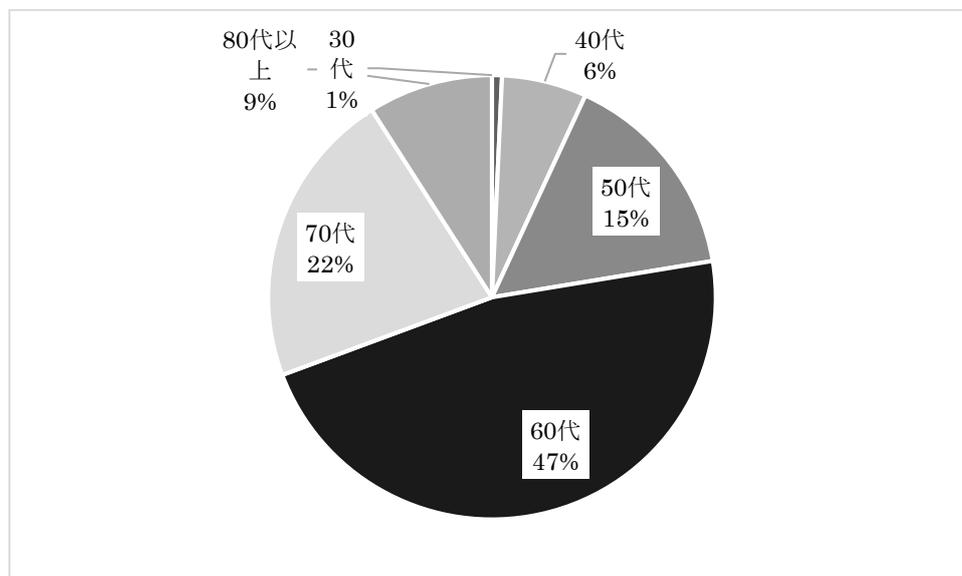
図1 性別



性別	回答数 (件)	パーセント (%)
女性	95	34.2
男性	183	65.8
合計	278	100.0

図1は、回答者の性別の分布を示したグラフである。回答者のうち34%が「女性」であり、66%が「男性」である。この調査では各世帯で「財産の管理について詳しい方」に調査を依頼している。ここから、全体の6割以上の各家庭において男性が主体となって財産管理を行っている可能性がある。

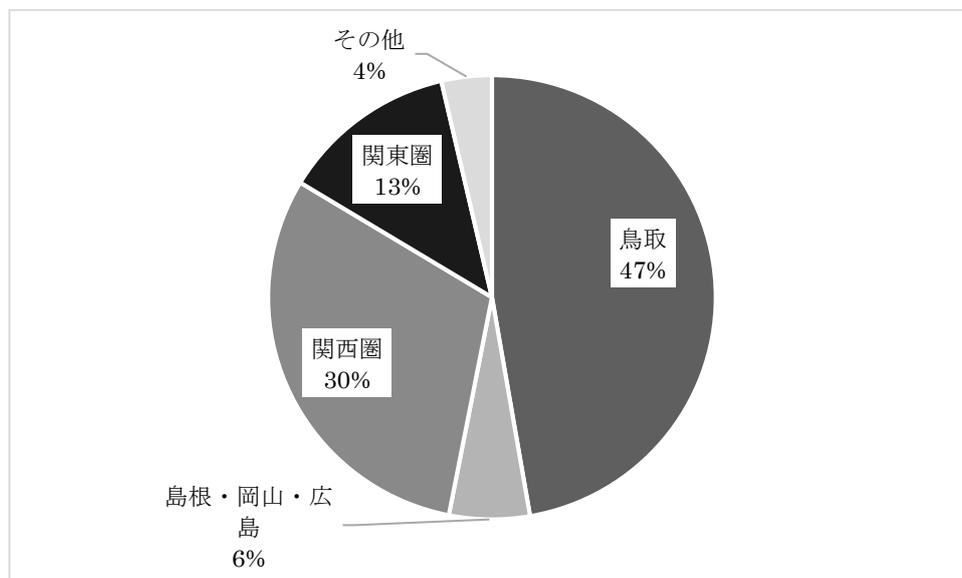
図2 年齢



年齢	回答数 (件)	パーセント (%)
20代	0	0
30代	2	0.7
40代	17	6.1
50代	43	15.5
60代	130	46.9
70代	60	21.7
80代以上	25	9.0
合計	277	100.0

図2は、回答者の年齢の分布を示したグラフである。「60代」と答えた方の割合が最も大きく、全体の47%を占めている。次いで割合の大きい方から、「70代」、「50代」、「80代以上」と続く。40代以下が占める割合は全体の7%である。ここから、財の管理の多くが60代以上の方々によって担われていることが分かる。

図3 現在居住地

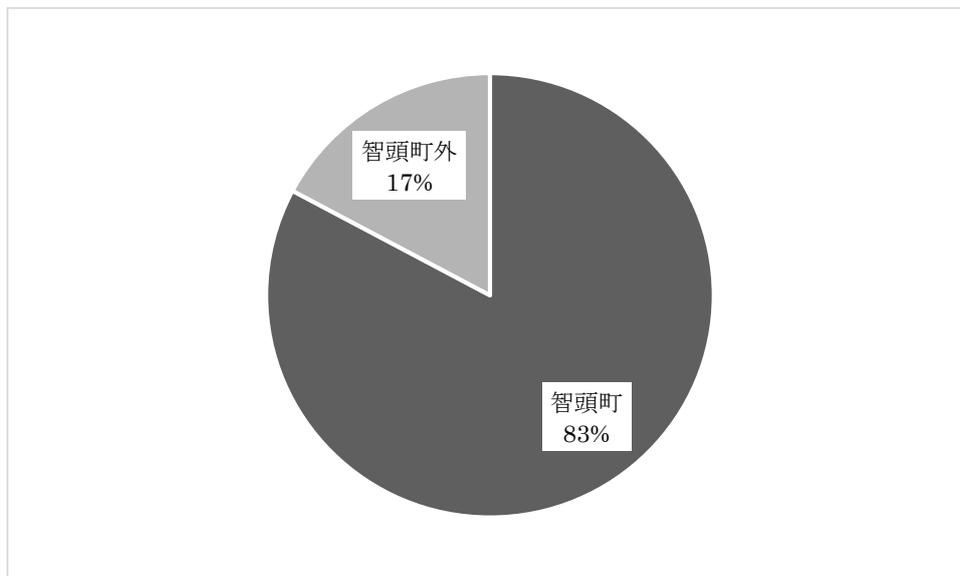


現在居住地	回答数 (件)	パーセント (%)
鳥取	130	47.3
島根・岡山・広島	16	5.8
関西圏	84	30.5
関東圏	35	12.7
その他	10	3.6
合計	275	100.0

現在居住地 都道府県別 (上位5府県)	回答数 (件)	パーセント (%)
鳥取県	130	47.3
大阪府	38	13.8
兵庫県	32	11.6
東京都	13	4.7
岡山県	10	3.6

図3は、回答者の現在居住地を示したグラフである。回答者の47パーセントが鳥取県内にお住まいであることが分かる。さらに、回答の多かった都道府県を見ると、大阪府(14%)、兵庫県(12%)、東京都(5%)、岡山県(4%)と続く。首都圏(関東・関西)や、智頭町から近隣の県の占める割合が大きいと言える。

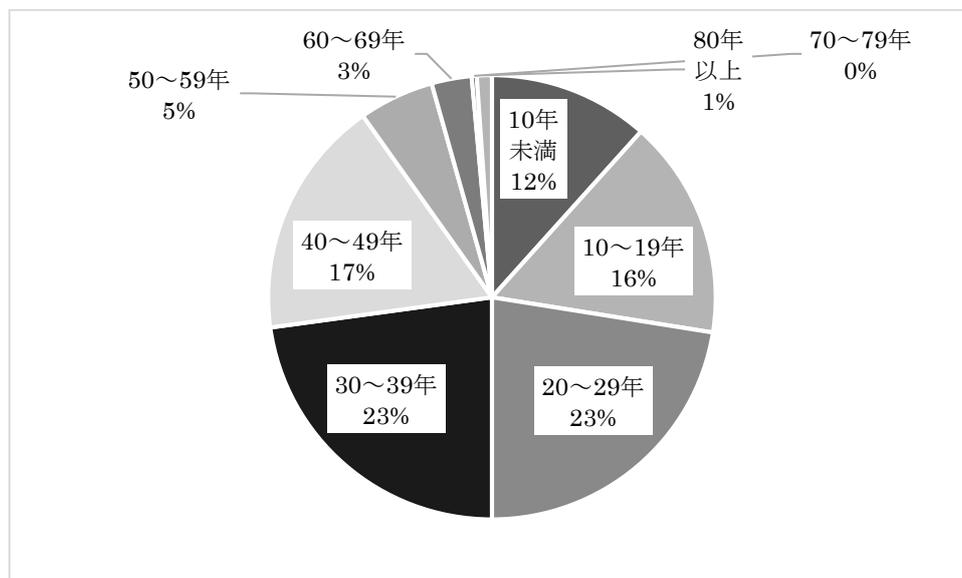
図 4 出身地



出身地	回答数 (件)	パーセント (%)
智頭町	231	82.8
智頭町外	48	17.2
合計	279	100.0

図 4 は、回答者の出身地を示したグラフである。智頭町内の出身者が 83%を占めている。他方で、町外の出身者の割合は 17%である。ここから、回答者の約 8 割は町内の出身であることが分かる。

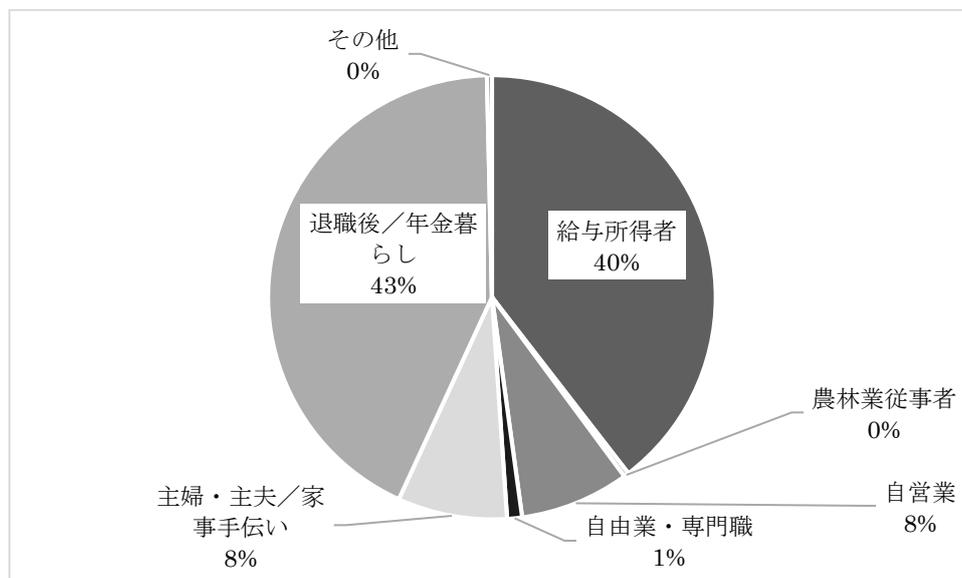
図5 居住年数



居住年数	回答数 (件)	パーセント (%)
10年未満	32	11.6
10~19年	44	15.9
20~29年	62	22.5
30~39年	63	22.8
40~49年	48	17.4
50~59年	15	5.4
60~69年	8	2.9
70~79年	1	0.4
80年以上	3	1.1
合計	276	100.0

図5は、回答者の居住年数を示したグラフである。現在の居住地に住み始めてから「30~39年」(23%)、「20~29年」(23%) 経つと回答した割合が最も大きく、全体の46%を占めている。さらに、現在の居住地に住み始めてから「40~49年」が17%、「10年~19年」が16%となっている。

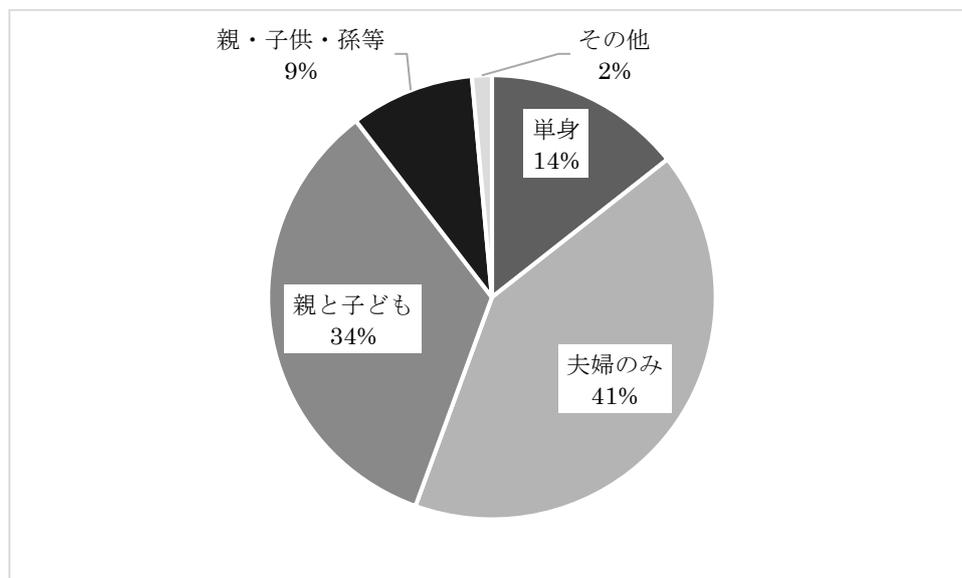
図6 職業



職業	回答数 (件)	パーセント (%)
給与所得者	110	39.6
農林業従事者	1	0.4
自営業	22	7.9
自由業・専門職	3	1.1
主婦・主夫／家事手伝い	22	7.9
退職後／年金暮らし	119	42.8
その他	1	0.4
合計	278	100.0

図6は、回答者の職業の分布を示したグラフである。「退職後あるいは年金暮らし」と回答した方の割合が大きく、全体の43%を占めている。次いで、「給与所得者」の割合が40%となっている。ここから、財産管理者の収入源のほとんどは年金、給与によるものである可能性が高いと言える。

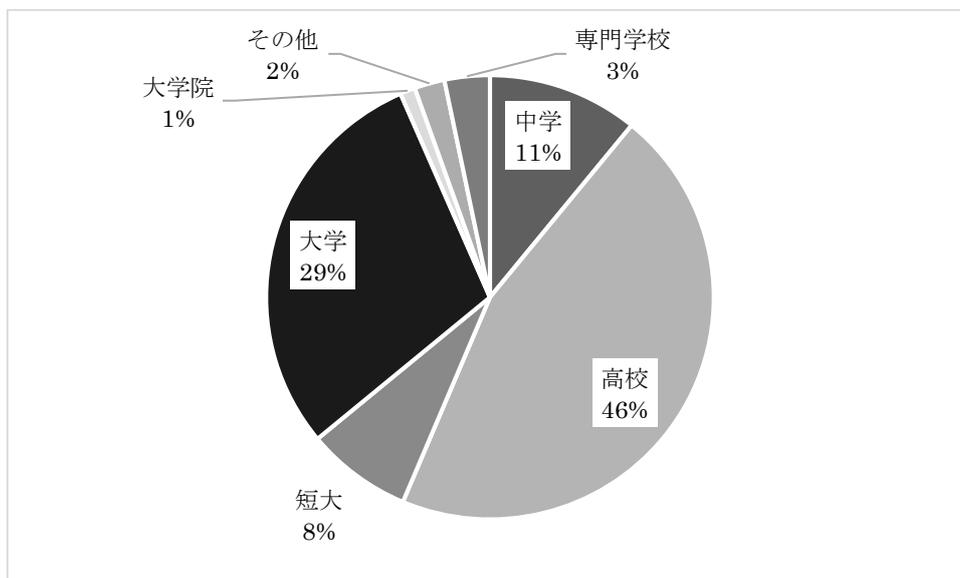
図7 家族構成



家族構成	回答数 (件)	パーセント (%)
単身	40	14.3
夫婦のみ	115	41.2
親と子ども	95	34.1
親・子ども・孫等	25	9.0
その他	4	1.4
合計	279	100.0

図7は、回答者の家族構成を示したグラフである。割合が大きいものから順に、「夫婦のみ」が41%、「親と子ども（2世帯）」が34%、「単身」が14%、「親・子ども・孫等（3世帯）」が9%となっている。

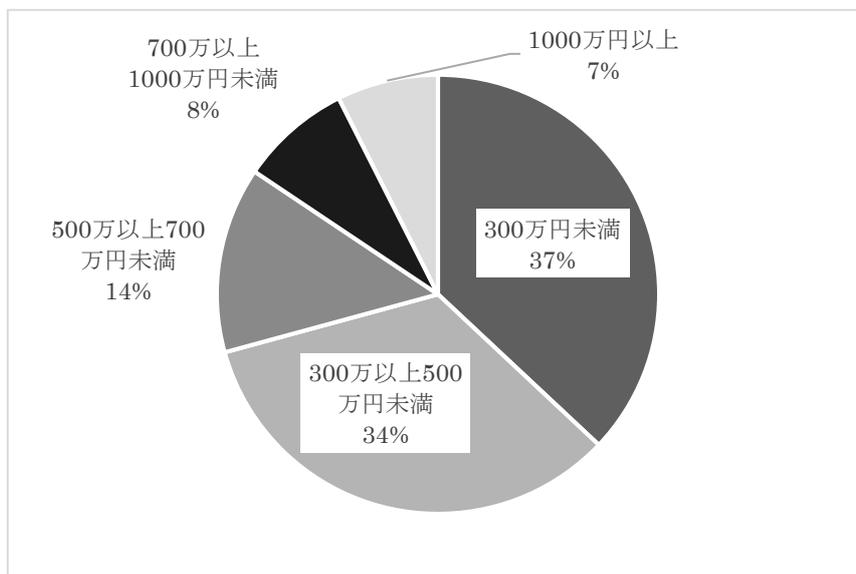
図8 教育歴



教育歴	回答数 (件)	パーセント (%)
中学	30	10.9
高校	125	45.5
短大	21	7.6
大学	81	29.5
大学院	3	1.1
専門学校	9	3.3
その他	6	2.2
合計	275	100.0

図8は、回答者の教育歴（最後に在籍した学校）の分布を示したグラフである。最も割合が大きいのは「高校」（46%）である。

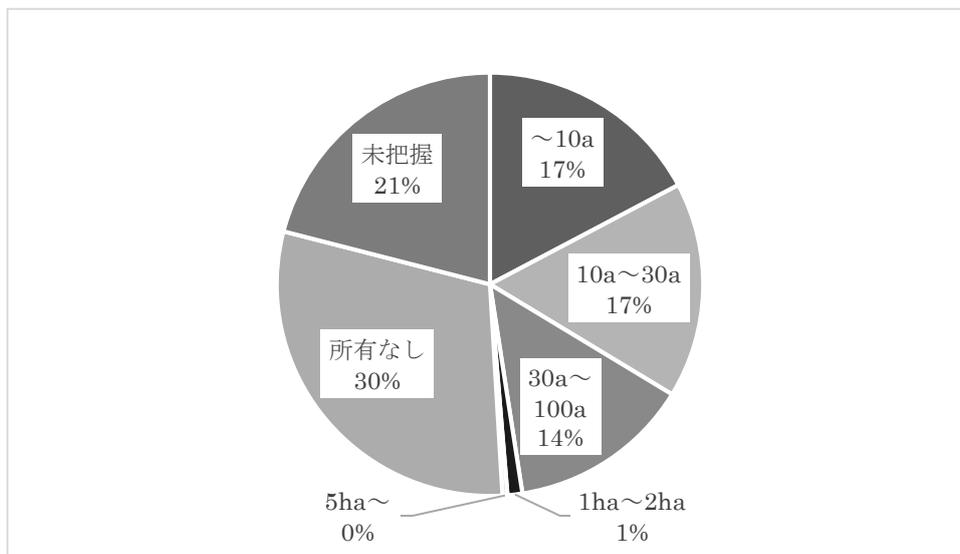
図9 世帯収入



世帯収入	回答数 (件)	パーセント (%)
300万円未満	100	37.0
300万以上500万円未満	91	33.7
500万以上700万円未満	37	13.7
700万以上1000万円未満	22	8.1
1000万円以上	20	7.4
合計	270	100.0

図9は、回答者の世帯収入を示したグラフである。「300万円未満」の世帯の割合が最も大きく、全体の37%を占めている。次いで、多い回答から順に「300万円以上500万円未満」(34%)、「500万円以上700万円未満」(14%)となっている。

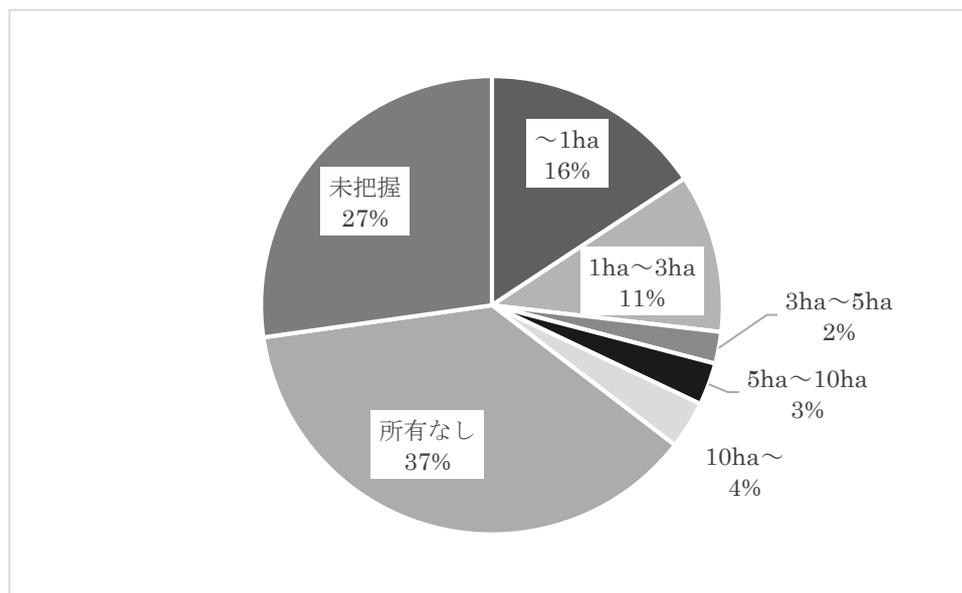
図10 農地所有面積



農地面積	回答数 (件)	パーセント (%)
~10a	46	17.2
10a~30a	44	16.5
30a~100a	37	13.9
1ha~2ha	3	1.1
2ha~5ha	0	0
5ha~	1	0.4
所有なし	80	30.0
未把握	56	21.0
合計	267	100.0

図10は、農地の保有面積の分布を示したグラフである。全体の70%は農地を保有していることが分かる。その内訳は、割合が大きいものから順に、「10a未満」「10a~30a」の所有がそれぞれ17%、「30a~100a」の所有が14%である。また、「1ha以上」の所有は1%に留まっている。他方で、全体の30%は農地を所有していない。また、農地の保有面積は、おおむね1ha未満であると考えられる。

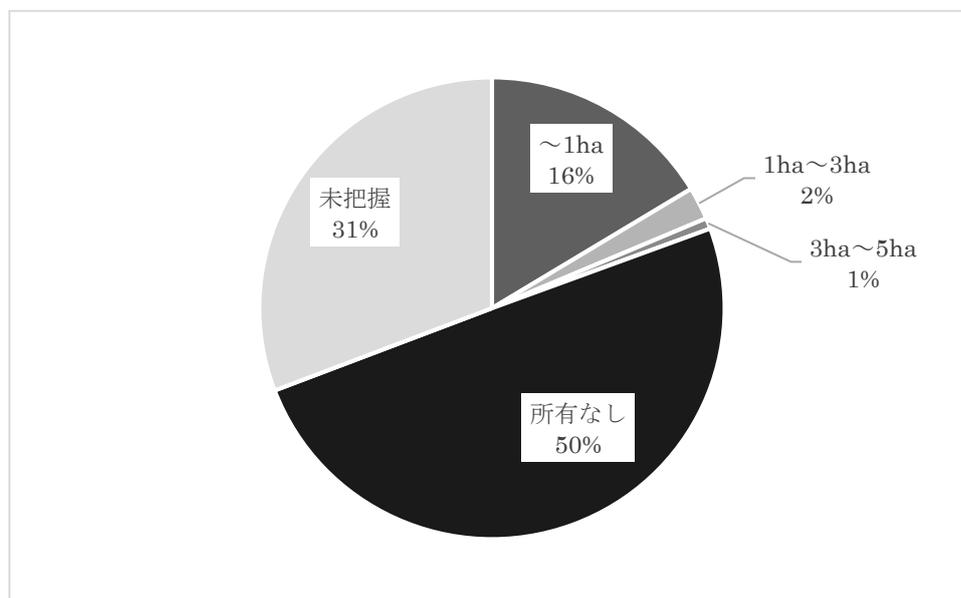
図 1 1 人工林所有面積



人工林面積	回答数 (件)	パーセント (%)
~1ha	42	15.7
1ha~3ha	30	11.2
3ha~5ha	6	2.2
5ha~10ha	8	3.0
10ha~	9	3.4
所有なし	100	37.3
未把握	73	27.2
合計	268	100.0

図 1 1 は、人工林（スギ、ヒノキなど）の所有面積の分布を示したグラフである。全体の 63%は農地を保有していることがわかる。全体の所有面積ごとに回答の割合を見ると、「1ha 未満」の所有が 16%、「1ha~3ha」の所有が 11%、3ha 以上の所有が合わせて 9%である。また、全体の 27%が「（面積を）よく把握できていない」と回答している。他方で、回答者の 37%は人工林を所有していない。ここから、全体の約 6 割が智頭町内に人工林を所有しており、面積はほとんどが 3ha 未満であることが分かる。

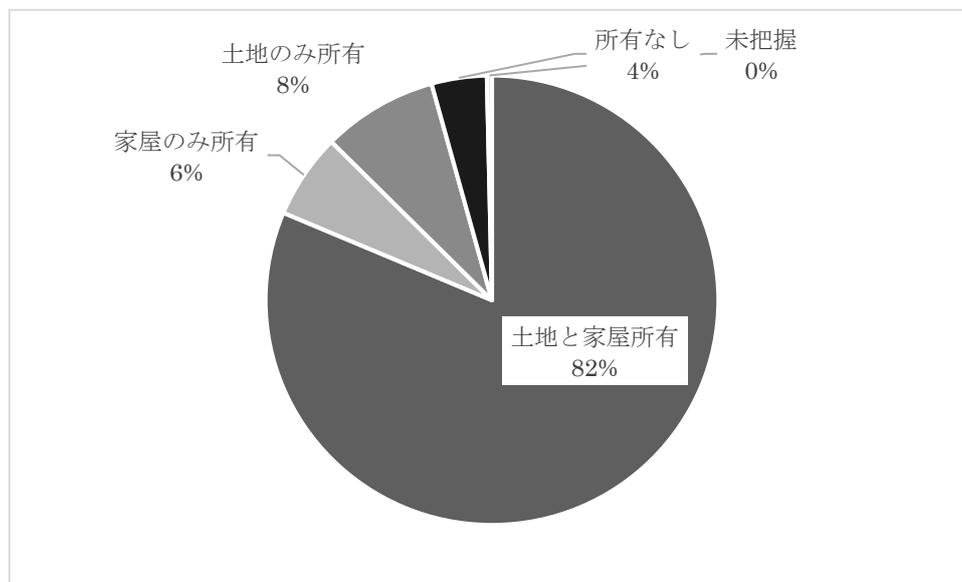
図 1 2 雑木林所有面積



雑木面積	回答数 (件)	パーセント (%)
~1ha	43	16.3
1ha~3ha	6	2.3
3ha~5ha	2	0.8
所有なし	131	49.8
未把握	81	30.8
合計	263	100.0

図 1 2 は、雑木林の所有面積の分布を示したグラフである。全体の 50%が雑木林を所有していることが分かる。所有面積ごとに回答の割合を見ると、「1ha 未満」が 16%、「1ha~3ha」が 2%、3ha 以上は 1%である。また、全体の 28%が「よく把握できていない」と回答している。他方、回答者の 50%が雑木林を所有していない。ここから、回答者の約 5 割は、智頭町内に雑木林を所有していることが分かる。また、約 3 割は自身が所有する雑木林の面積を十分に把握していないことが分かる。

図 1 3 家屋の所有



土地家屋所有	回答数 (件)	パーセント (%)
土地と家屋所有	227	81.4
家屋のみ所有	17	6.1
土地のみ所有	23	8.2
所有なし	11	3.9
把握なし	1	0.4
合計	279	100.0

図 1 3 は、回答者が智頭町に土地と家屋を所有しているかどうかを示したグラフである。全体の 82% が智頭町内に土地と家屋を所有していることが分かる。また、家屋のみ所有していると答えた方の割合は 6% である。ここから、回答者の約 9 割が智頭町内に家屋または土地を所有していることが分かる。

図 1 4 田の管理

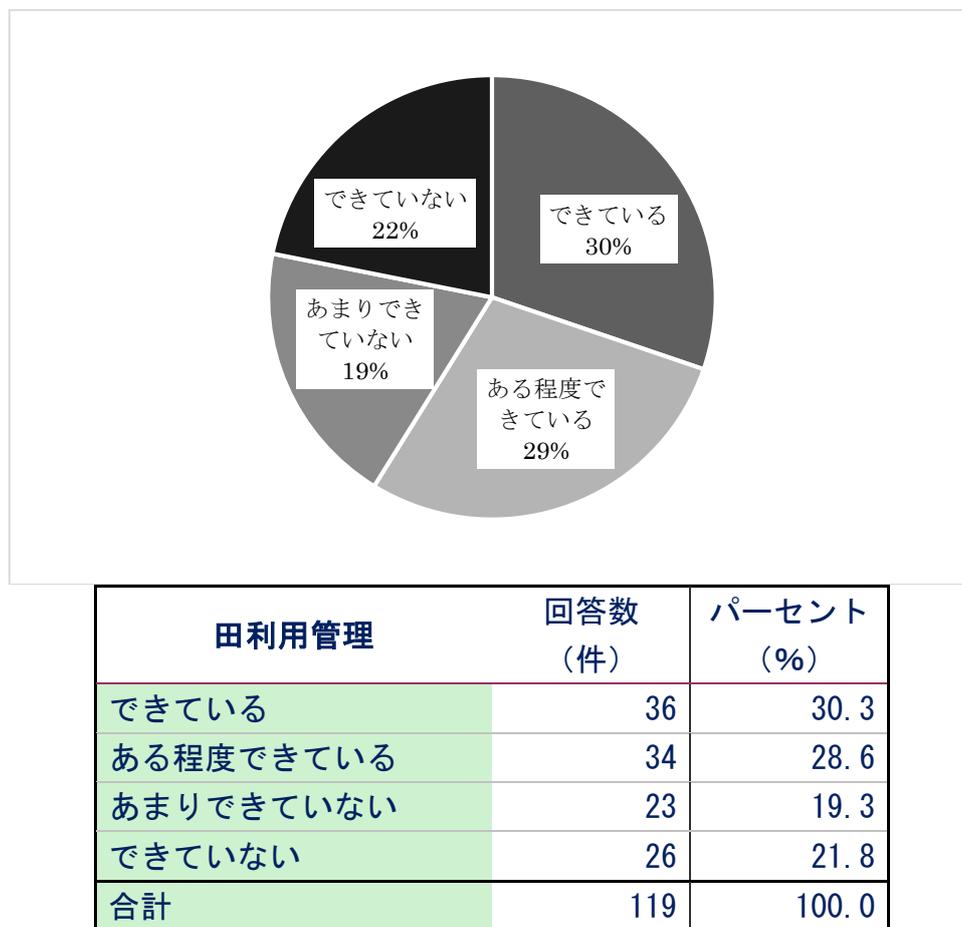
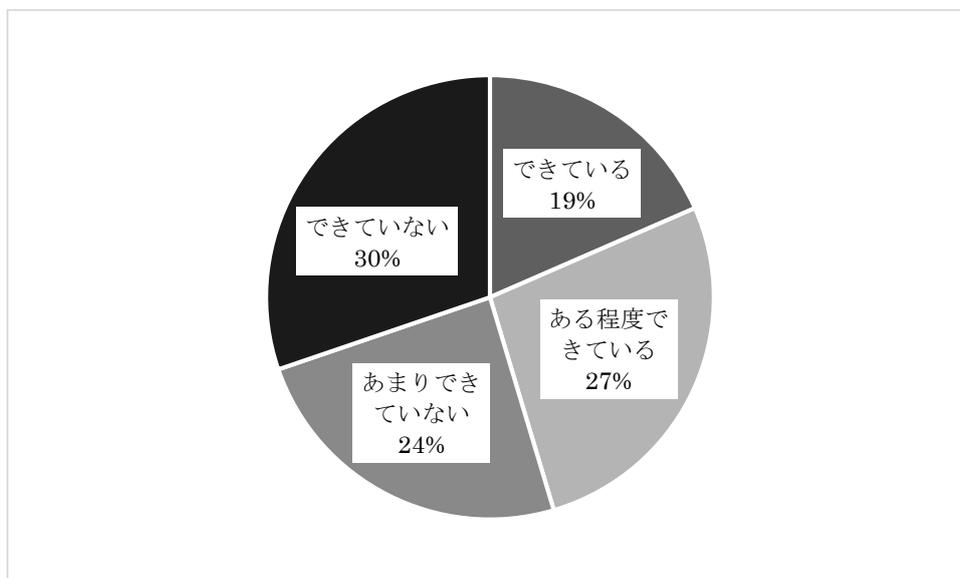


図 1 4 は、田の利用・管理状況を示したグラフである。最も多い回答は、利用管理が「できている」(30%) である。「できている」と「ある程度できている」を合わせた 59% の回答者は、田の利用管理ができていることになる。他方で、利用管理が「できていない」と「あまりできていない」を合わせると、その割合は 41% となる。ここから、田を所有している回答者の約 6 割は田の管理ができていることが分かる。

図 1 5 畑の管理



畑利用管理	回答数 (件)	パーセント (%)
できている	28	18.4
ある程度できている	41	27.0
あまりできていない	37	24.3
できていない	46	30.3
合計	152	100.0

図 1 5 は、畑の利用・管理状況を示したグラフである。最も多い回答は、利用管理が「できていない」(30%)である。管理が「できていない」と「あまりできていない」を合わせた 54%が畑を十分に管理できていないことになる。他方で、利用管理が「できている」、「ある程度できている」と答えた方の割合は 46%である。ここから、全体の約 5 割は、畑の管理が十分にできていないことが分かる。

図 1 6 人工林の管理

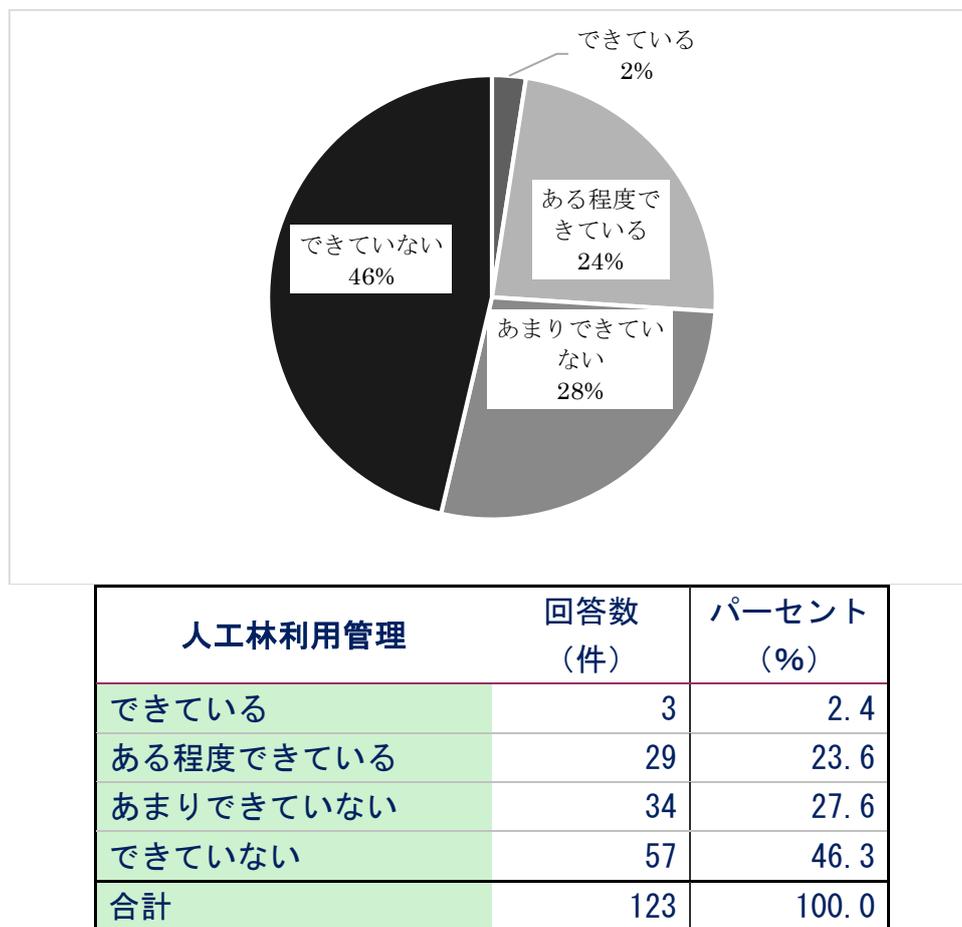
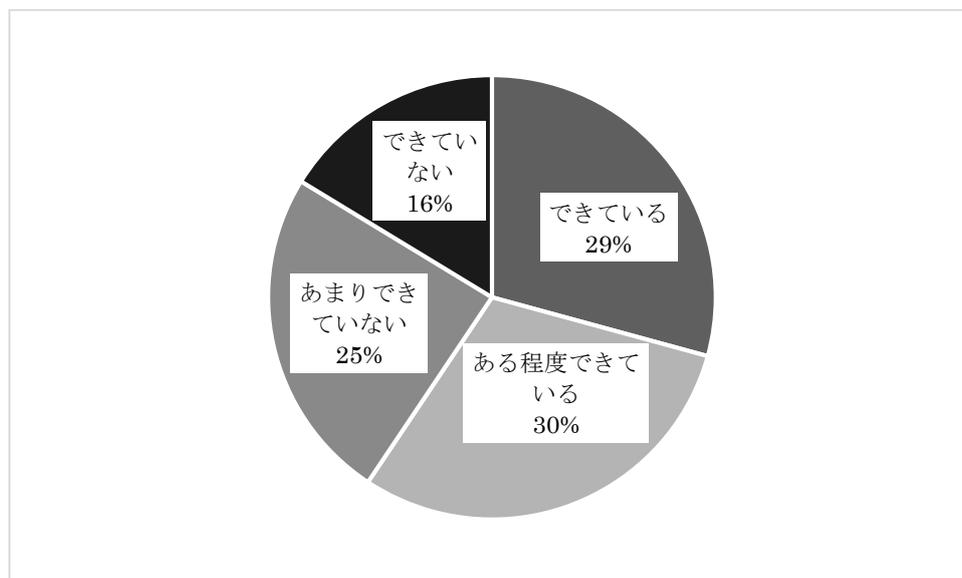


図 1 6 は、人工林の利用・管理状況を示したグラフである。最も多い回答は、利用管理が「できていない」(46%) である。また、「できていない」と「あまりできていない」を合わせると、74%となる。他方で、管理が「できている」、「ある程度できている」と答えた方の割合は 26%である。ここから、人工林所有者の約 7 割は、共有林を十分に管理できていないことが分かる。

図 1 7 家屋の管理



家屋利用管理	回答数 (件)	パーセント (%)
できている	72	29.3
ある程度できている	74	30.1
あまりできていない	60	24.4
できていない	40	16.3
合計	246	100.0

図 1 7 は、家屋の利用・管理状況を示したグラフである。最も多い回答は、「ある程度できている」(30%) である。「できている」と「ある程度できている」を合わせると、59%となる。他方で、「できていない」、「あまりできていない」と答えた方の割合は 41% である。ここから、共有林所有者の約 6 割は、共有林を利用管理できていることが分かる。

図 1 8 農地の継承者

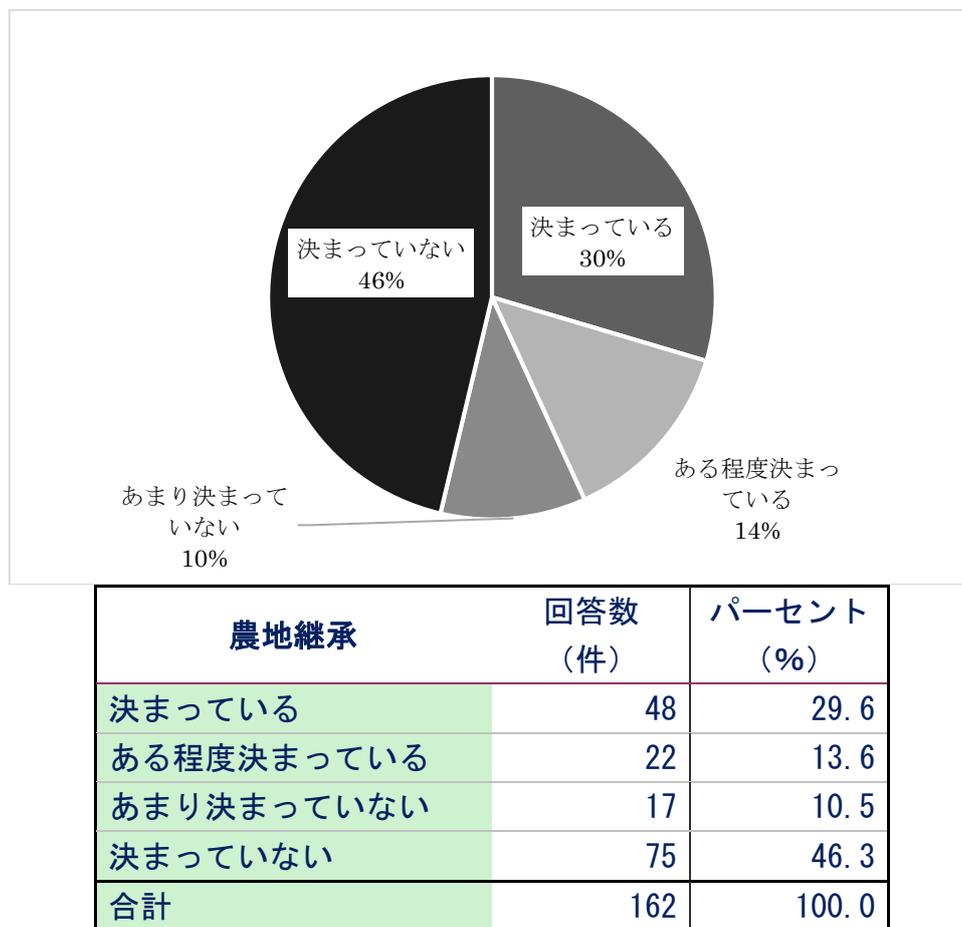


図 1 8 は、農地の次期継承者の決定状況を示したグラフである。最も多い回答は、農地の継承者が「決まっていない」(46%)である。継承者が「決まっていない」と「あまり決まっていない」を合わせると、56%となる。他方で、継承者が「決まっている」、「ある程度決まっている」と答えた方の割合は 44%である。ここから、農地所有者の約 6 割は、後継者が決まっていないことが分かる。

図 1 9 山林の継承者

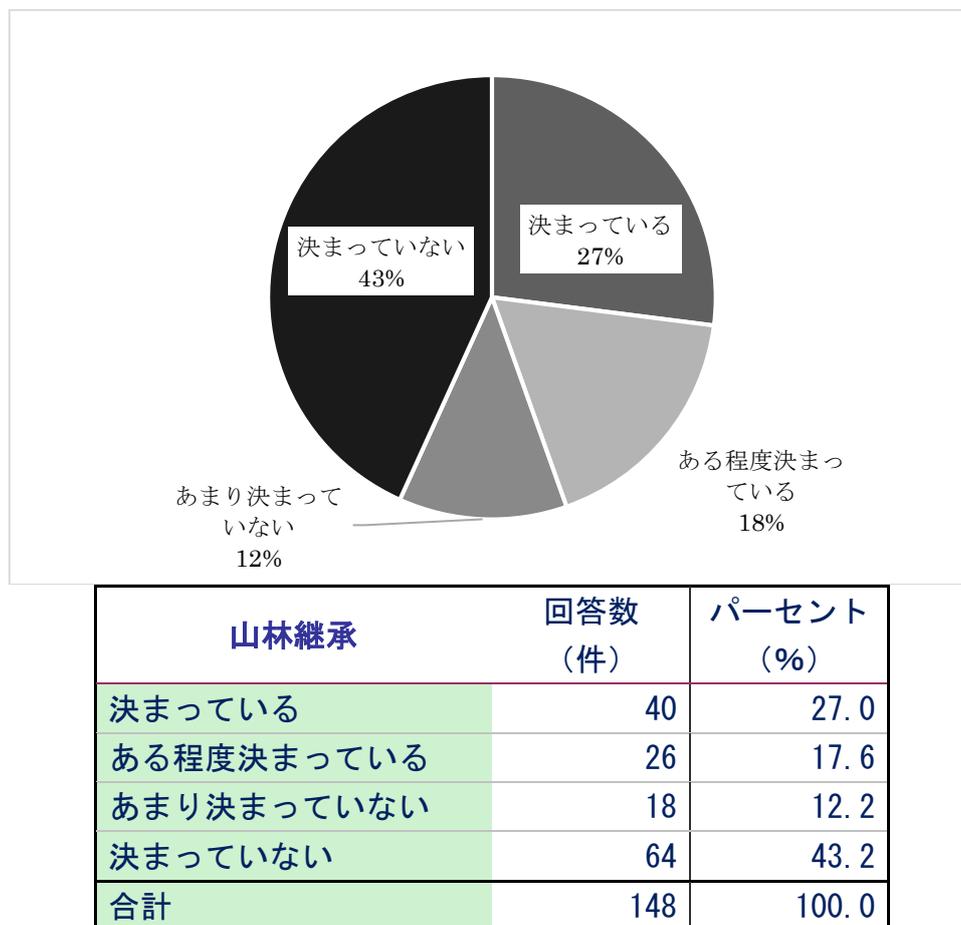


図 1 9 は、山林の次期継承者の決定状況を示したグラフである。最も多い回答は、山林の継承者が「決まっていない」(43%) である。継承者が「決まっていない」と「あまり決まっていない」を合わせると、55%となる。他方で、継承者が「決まっている」、「ある程度決まっている」と答えた方の割合は 45%である。ここから、山林所有者の約 6 割は、後継者が決まっていないことが分かる。

図 2 0 家屋の継承者

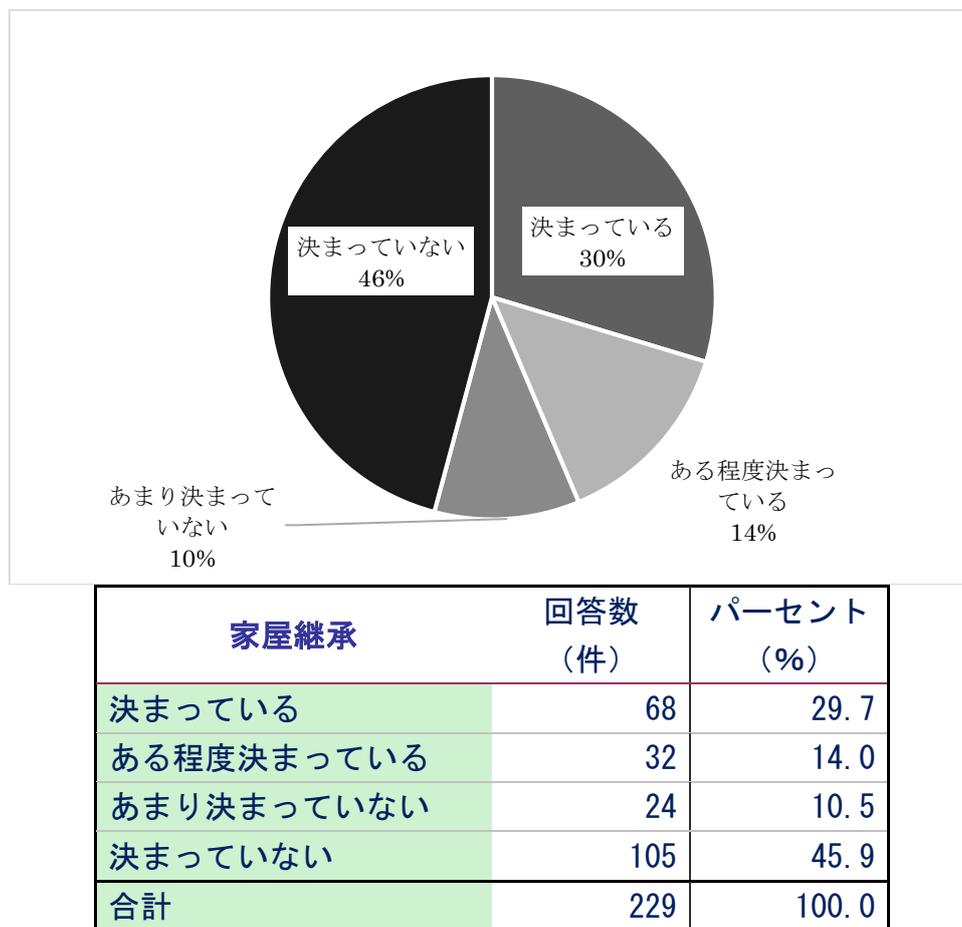


図 2 0 は、家屋の次期継承者の決定状況を示したグラフである。最も多い回答は、家屋の継承者が「決まっていない」(46%) である。継承者が「決まっていない」と「あまり決まっていない」を合わせると、その割合は 56% となる。他方で、継承者が「決まっている」、「ある程度決まっている」と答えた方の割合は 44% である。ここから、家屋を所有している方の約 6 割は、後継者が決まっていないことが分かる。

図 2 1 農地に対する金銭的・精神的負担感

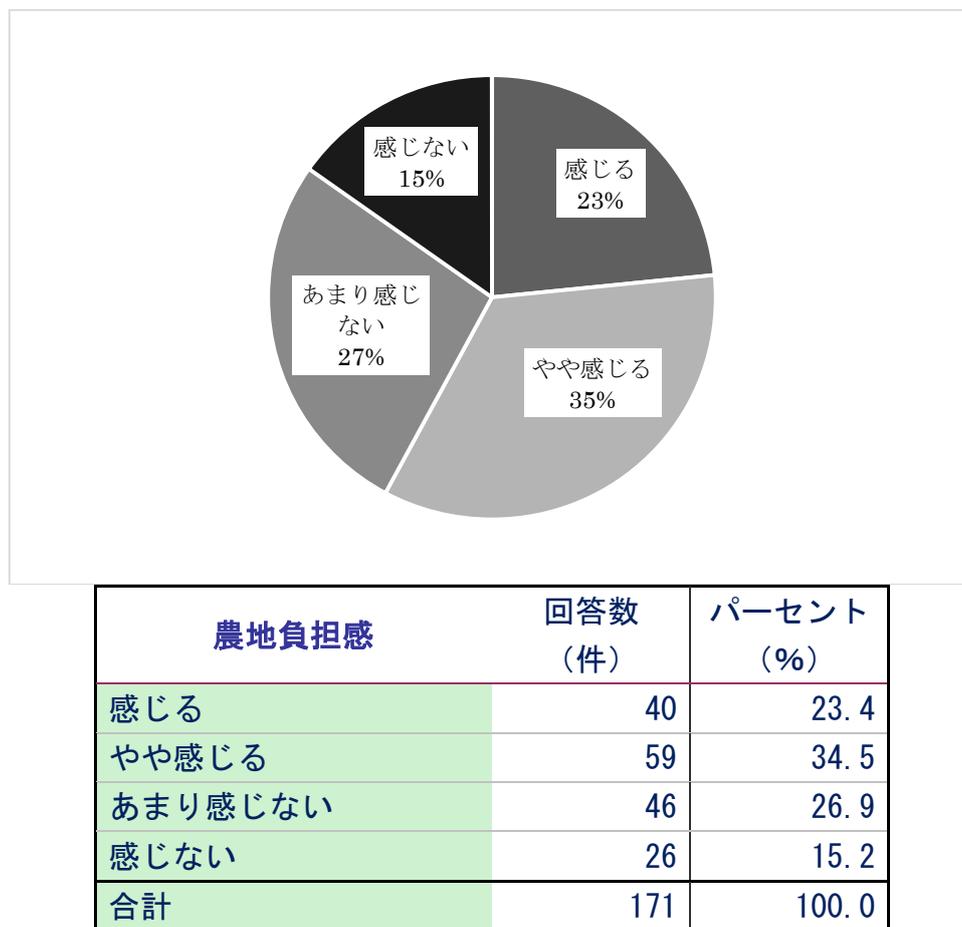
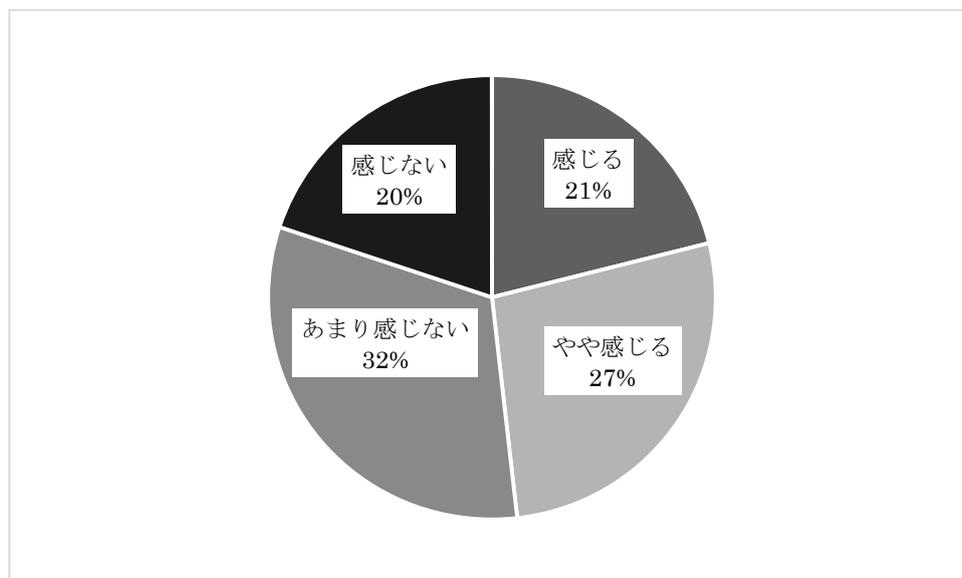


図 2 1 は、農地を管理することに対する金銭的、精神的な負担感の割合を示したグラフである。最も多い回答は、「やや感じる」(35%) である。「感じる」と「やや感じる」を合わせると、その割合は 58% となる。他方で、負担に「感じない」、「あまり感じない」と答えた割合は 42% である。ここから、農地を所有している方の約 6 割が、農地を管理することに負担を感じていることが分かる。

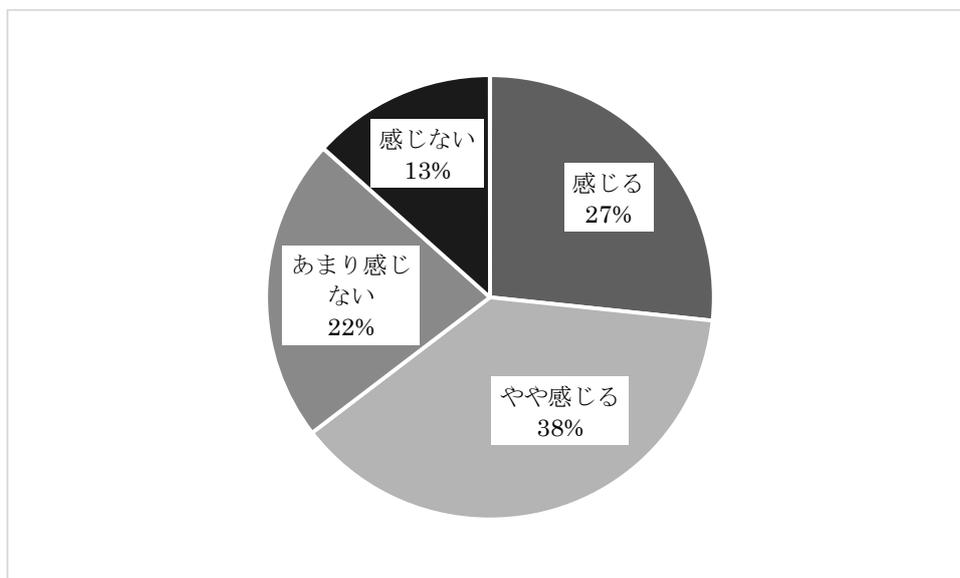
図 2 2 山林に対する金銭的・精神的負担感



山林負担感	回答数 (件)	パーセント (%)
感じる	35	21.1
やや感じる	45	27.1
あまり感じない	53	31.9
感じない	33	19.9
合計	166	100.0

図 2 2 は、個人所有の山林を管理することに対する金銭的、精神的な負担感の割合を示したグラフである。最も多い回答は、「あまり感じない」(32%) である。「感じない」と「あまり感じない」を合わせると、その割合は 52% となる。他方で、「感じる」、「やや感じる」と答えた方の割合は 48% である。ここから、個人の山林を所有している方の約 5 割が、山林を管理することに負担を感じていることが分かる。

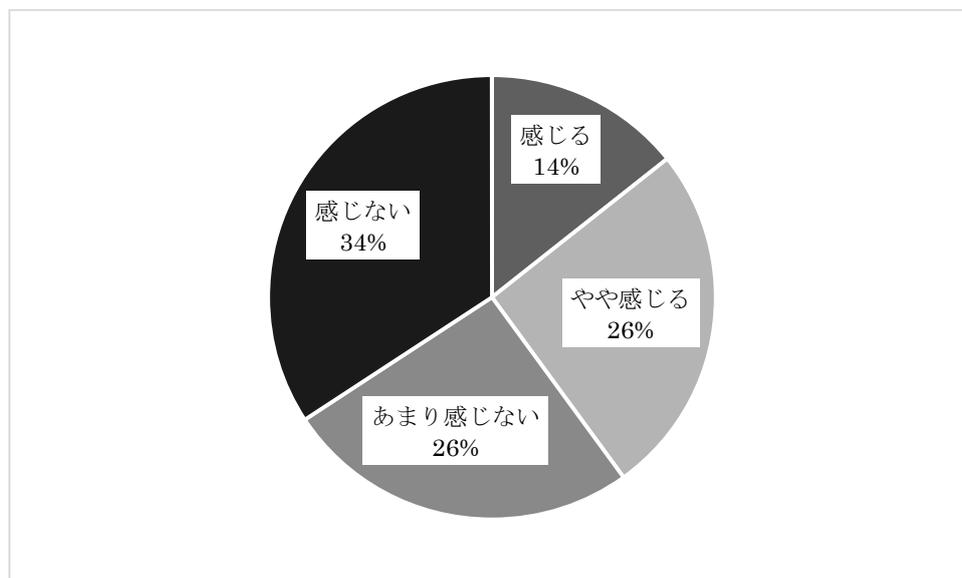
図 2 3 家屋に対する金銭的・精神的負担感



家屋負担感	回答数 (件)	パーセント (%)
感じる	64	26.7
やや感じる	91	37.9
あまり感じない	53	22.1
感じない	32	13.3
合計	240	100.0

図 2 3 は、家屋を管理することに対して金銭的、精神的な負担感の割合を示したグラフである。「やや感じる」と答えた方の割合が最も大きく、38%である。「感じる」と「やや感じる」を合わせると、その割合は 65%となる。他方で、「感じない」、「あまり感じない」と答えた方の割合をあわせて 35%である。ここから、家屋を所有している方の約 7 割が、家屋を管理することに負担を感じていることが分かる。

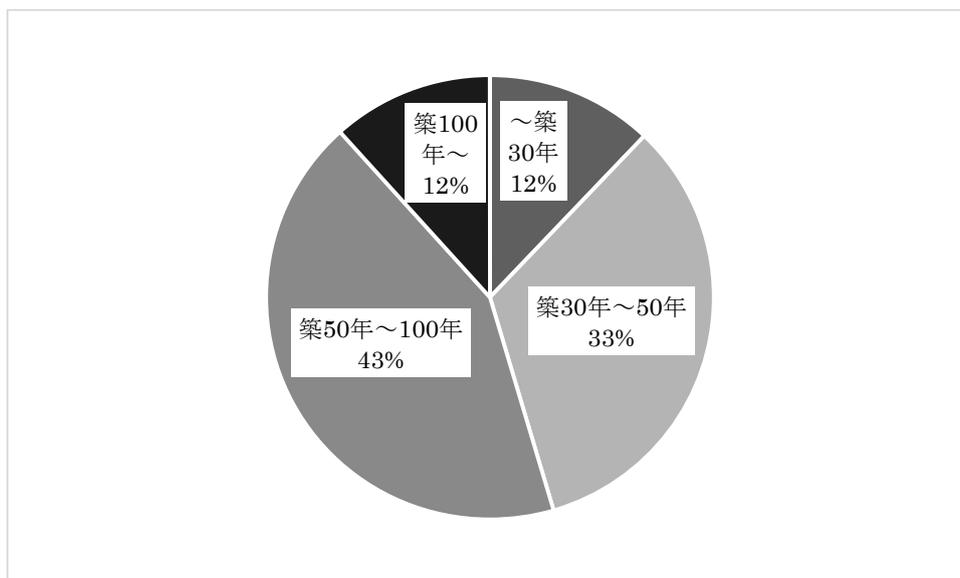
図 2 4 賃貸家屋に対する金銭的・精神的負担感



賃貸家屋負担感	回答数 (件)	パーセント (%)
感じる	5	14.3
やや感じる	9	25.7
あまり感じない	9	25.7
感じない	12	34.3
合計	35	100.0

図 2 4 は、賃貸家屋（人に貸している家屋）を管理することに対して金銭的、精神的な負担感の割合を示したグラフである。最も多い回答は、「感じない」（34%）である。「感じない」と「あまり感じない」を合わせると、その割合は 60%となる。他方で、「感じる」、「やや感じる」と答えた方の割合は 40%である。ここから、賃貸家屋を所有している方の約 6 割が、智頭町内の賃貸家屋の管理を負担に感じていないことが分かる。

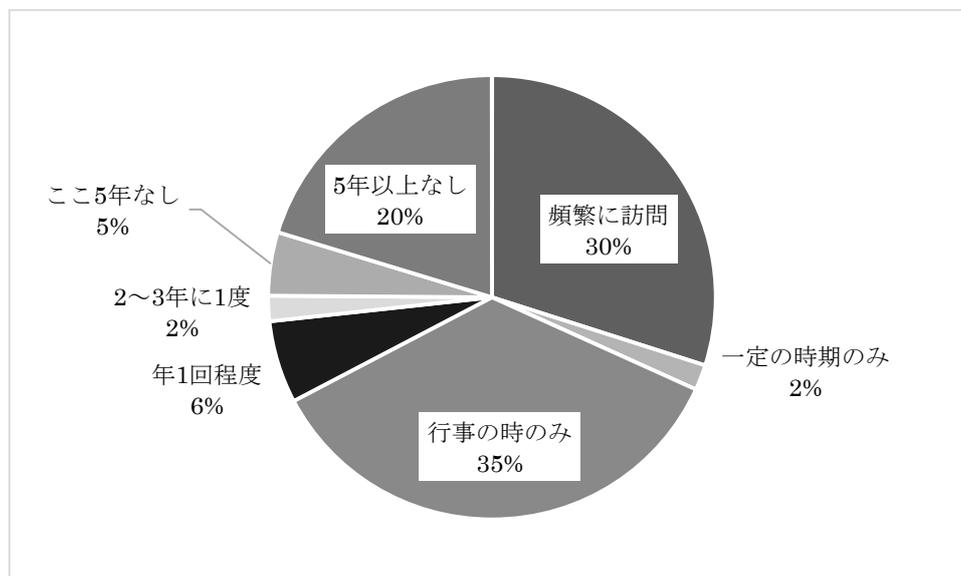
図 2 5 家屋築年数



築年数	回答数 (件)	パーセント (%)
～築30年	29	12.1
築30年～50年	80	33.3
築50年～100年	103	42.9
築100年～	28	11.7
合計	240	100.0

図 2 5 は、家屋の築年数を示したグラフである。「築 50 年～100 年」と答えた方の割合が最も大きく、43%である。次いで割合の大きいものから順に、「築 30 年～50 年」が 33%、「～築 30 年」が 12%、「築 100 年～」が 12%である。ここから、回答者が所有している家屋の約 6 割が、築 50 年以上経っているものであることが分かる。

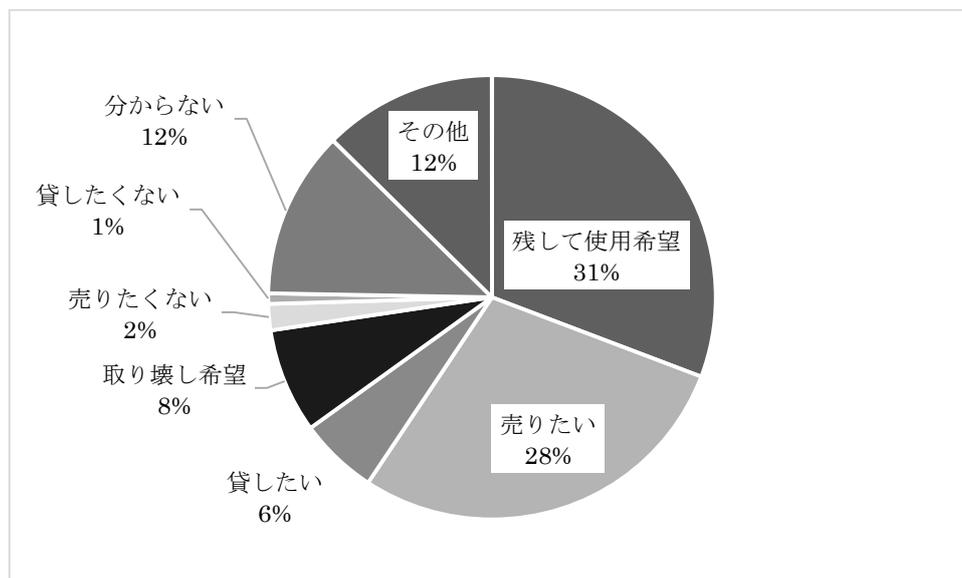
図 2 6 家屋利用頻度



家屋利用頻度	回答数 (件)	パーセント (%)
頻繁に訪問	65	30.0
一定の時期のみ	4	1.8
行事の時のみ	77	35.5
年1回程度	13	6.0
2~3年に1度	4	1.8
ここ5年なし	10	4.6
5年以上なし	44	20.3
合計	217	100.0

図 2 6 は、家屋の利用頻度を示したグラフである。最も多い回答は、「行事があるときに利用している」(35%) である。次いで割合の大きいものから順に、「頻繁に訪れて利用している」30%、「5年以上利用していない」が 20%である。

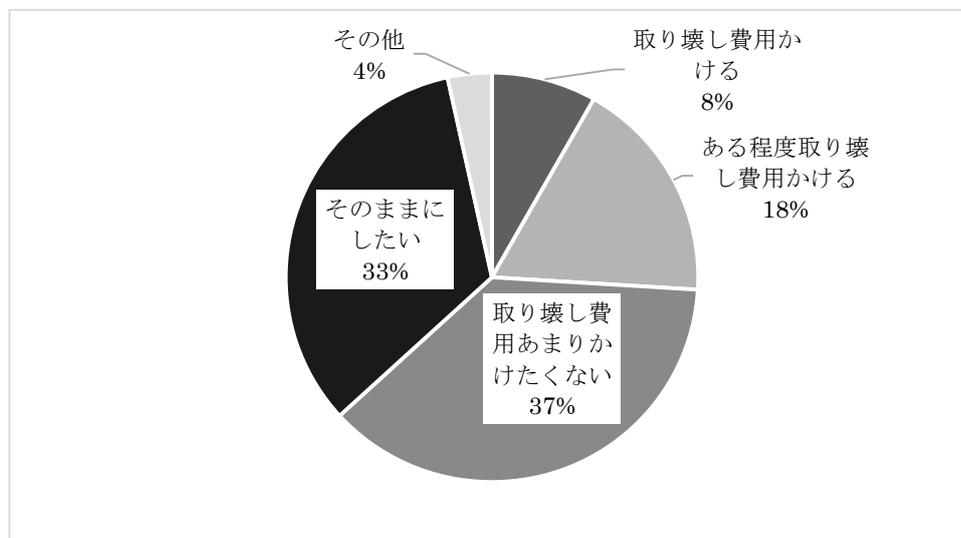
図 2 7 家屋についての今後の意向



家屋についての考え	回答数 (件)	パーセント (%)
残して使用希望	81	30.8
売りたい	75	28.5
貸したい	15	5.7
取り壊し希望	20	7.6
売りにたくない	5	1.9
貸したくない	2	0.8
分からない	32	12.2
その他	33	12.5
合計	263	100.0

図 2 7 は、所有している家屋を今後どのように扱いたいのか、意向を示したグラフである。最も多い回答は、「そのまま使用したい」(31%) である。次いで割合の大きいものから順に、「売りたい」が 28%、「分からない」が 12% である。

図 2 8 老朽化家屋の処分



老朽家屋について	回答数 (件)	パーセント (%)
取り壊し費用かける	19	8.2
ある程度取り壊し費用かける	41	17.7
取り壊し費用あまりかけたくない	86	37.2
そのままだにしたい	77	33.3
その他	8	3.5
合計	231	100.0

図 2 8 は、老朽化した家屋の処分について意向を示したグラフである。「あまり費用をかけたくない」と回答した割合は 37%であり、最も大きい。次いで、回答者の 33%が「迷惑をかけなければ、そのままにしておきたい」と回答している。他方で、「費用をかけてもよい」、「ある程度なら費用をかけてもよい」と回答した割合は 26%である。ここから、回答者の約 7 割は、家屋を処分することに対して積極的に考えていない傾向があることが分かる。

図 2 9 人工林の間伐

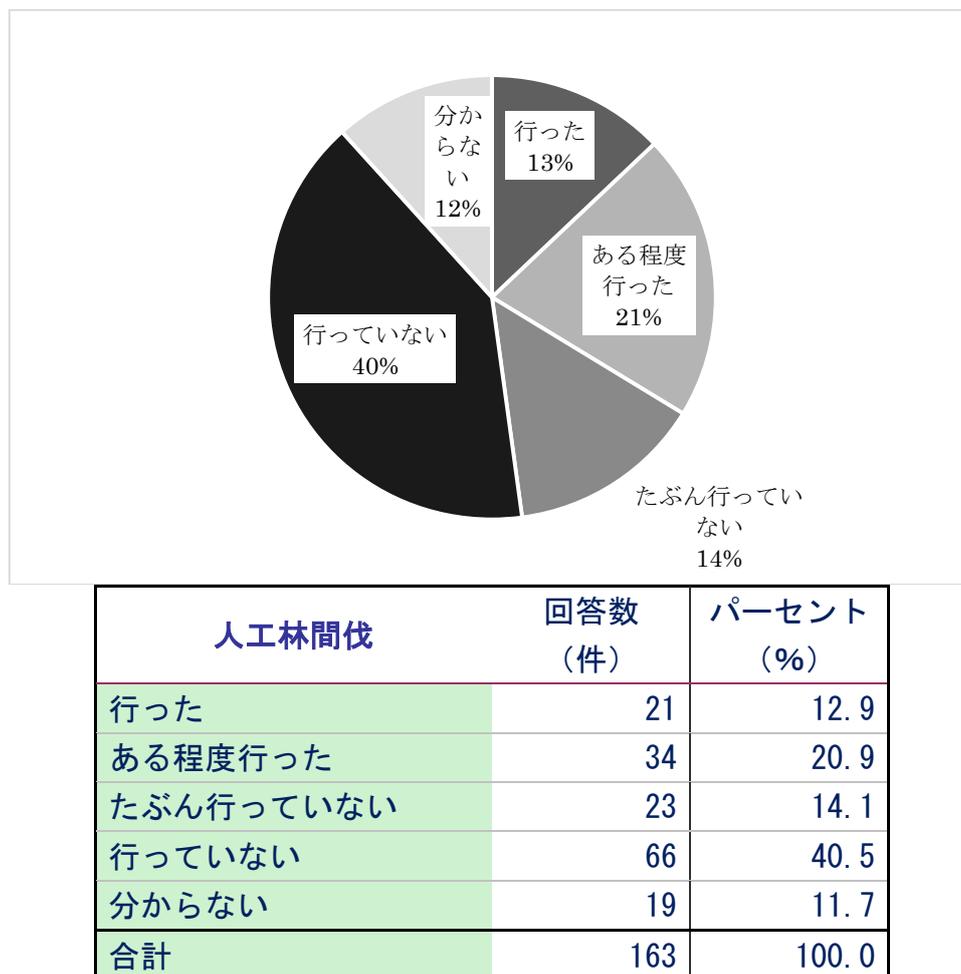
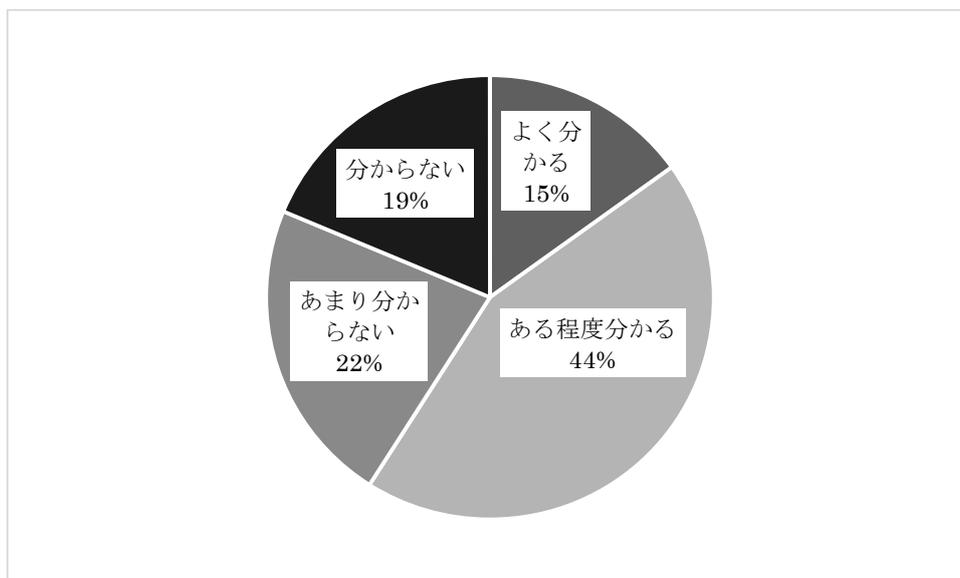


図 2 9 は、山林（私有人工林と共有林）所有者のうち、この 10 年以内に間伐を行った方の割合を示している。最も多い回答は、間伐を「行っていない」（40%）である。間伐を「行っていない」と「たぶん行っていない」を合わせた 54% の回答者は、この 10 年間に間伐を行っていないことになる。他方で、間伐を「行った」、「ある程度行った」と答えた方の割合は 34% である。ここから、回答者の約 7 割は、間伐を十分に行えていない可能性がある。

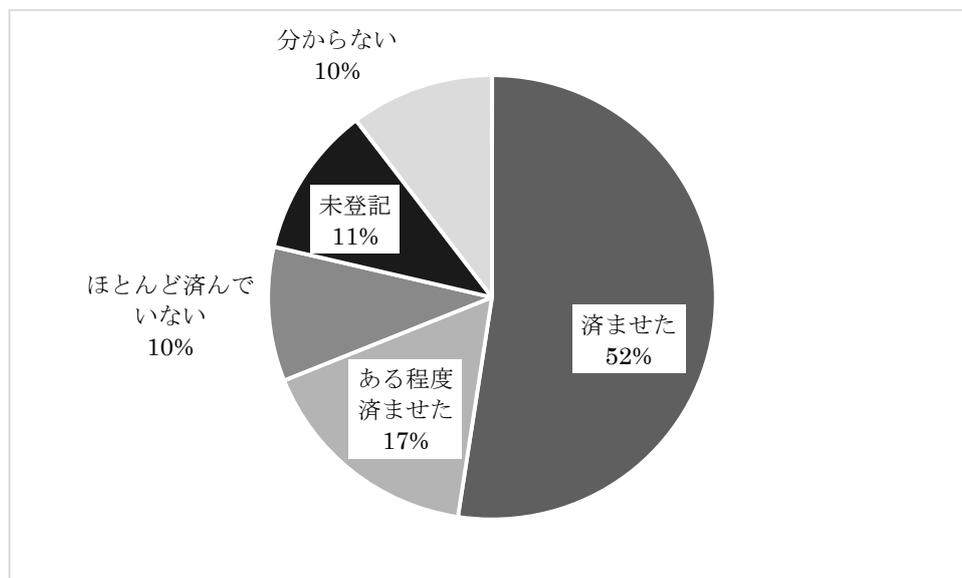
図 3 0 山林場所



山林場所	回答数 (件)	パーセント (%)
よく分かる	25	15.1
ある程度分かる	73	44.0
あまり分からない	37	22.3
分からない	31	18.7
合計	166	100.0

図 3 0 は、所有している山林がある場所を認識している方の割合を示したグラフである。最も多い回答は、場所が「ある程度分かる」(44%) である。場所が「よく分かる」、「ある程度よく分かる」を合わせると、その割合は 59% となる。他方で、場所が「ほとんど分からない」、「あまり分からない」と回答した割合は合わせて 41% である。ここから、回答者の約 6 割は自身が所有している山林の場所を把握していると考えられる。

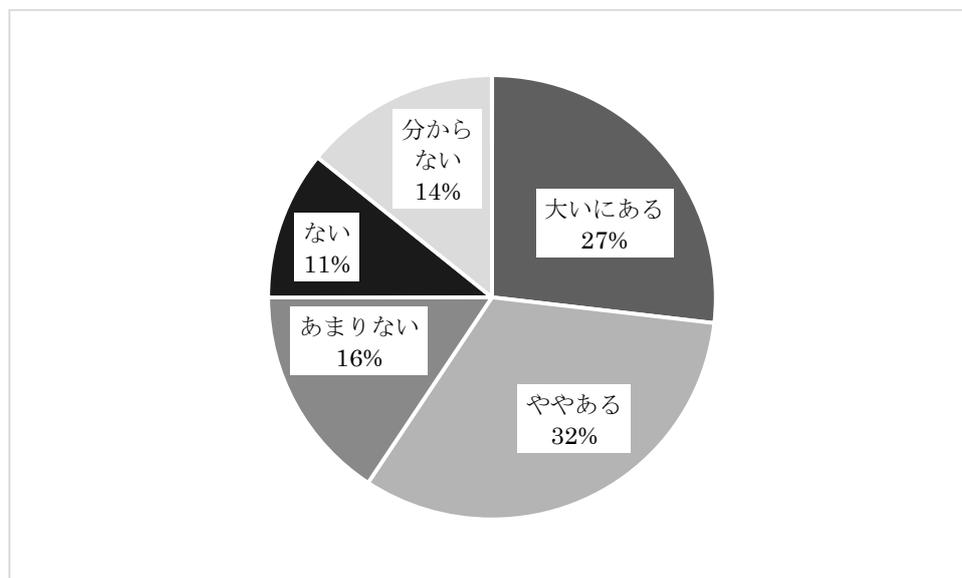
図 3 1 山林登記



山林登記	回答数 (件)	パーセント (%)
済ませた	86	52.4
ある程度済ませた	27	16.5
ほとんど済んでいない	16	9.8
未登記	18	11.0
分からない	17	10.4
合計	164	100.0

図 3 1 は、山林の所有者の山林の登記状況を示したグラフである。最も多い回答は、登記を「済ませている」(52%) である。登記を「済ませている」と「ある程度済ませている」を合わせると、その割合は 69% となる。他方で、「未登記」、登記を「ほとんど済ませていない」と回答した方の割合は合わせて 21% である。ここから、回答者の約 7 割は山林の登記を済ませていることが分かる。

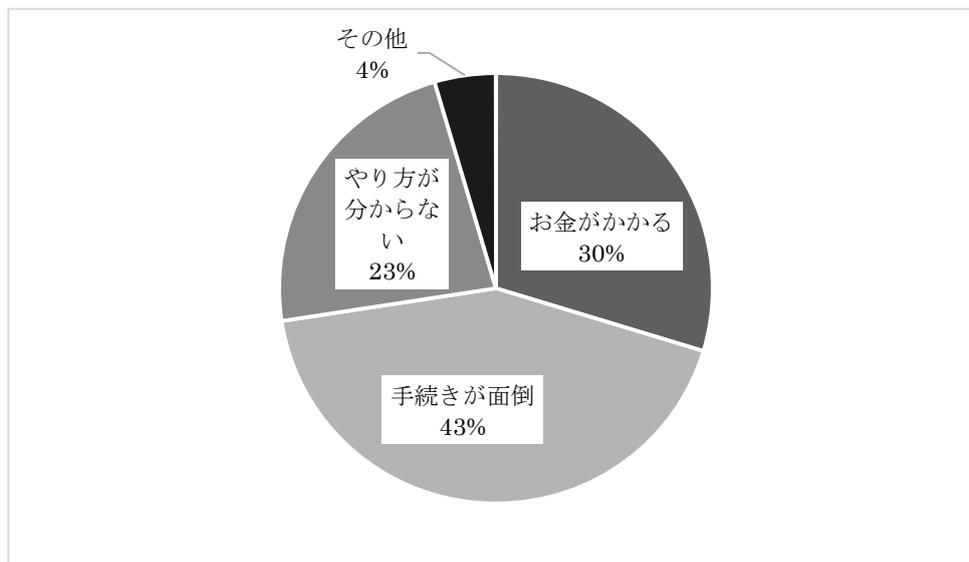
図 3 2 今後も財産管理を行う意思の有無



財産管理意思	回答数 (件)	パーセント (%)
大いにある	72	26.9
ややある	87	32.5
あまりない	42	15.7
ない	29	10.8
分からない	38	14.2
合計	268	100.0

図 3 2 は、自己所有の財産（土地、家屋など）を今後も管理していく意思の有無についての分布を示したグラフである。最も多い回答は、今後も財産管理を行っていくつもりが「ややある」（32%）である。「大いにある」と「ややある」を合わせると、その割合は 59%となる。他方で、「ない」、「あまりない」と回答した割合はあわせて 27%である。ここから、回答者の約 6 割が、今後も財産管理を行っていくつもりであることが分かる。

図 3 3 財産管理が難しい理由



管理困難理由	回答数 (件)	パーセント (%)
お金がかかる	52	29.7
手続きが面倒	75	42.9
やり方が分からない	40	22.9
その他	8	4.6
合計	175	100.0

図 3 3 は、財産を管理することを難しくさせている理由を示したグラフである。回答者のうち、「手続きが面倒だから」と回答した方が最も多く、その割合は 43%である。次いで割合の大きいものから順に、「お金がかかるから」(30%)、「やり方が分からないから」が 23%である。ここから、智頭町外にお住まいの方々が財産管理を行っていく上で、複雑な手続きや、費用が大きな負担となっている可能性があると言える。また、その他の自由記載欄には、「相続人がいない」という回答が 7 件あった。

図 3 4 公的機関へ財産を寄付する意思の有無

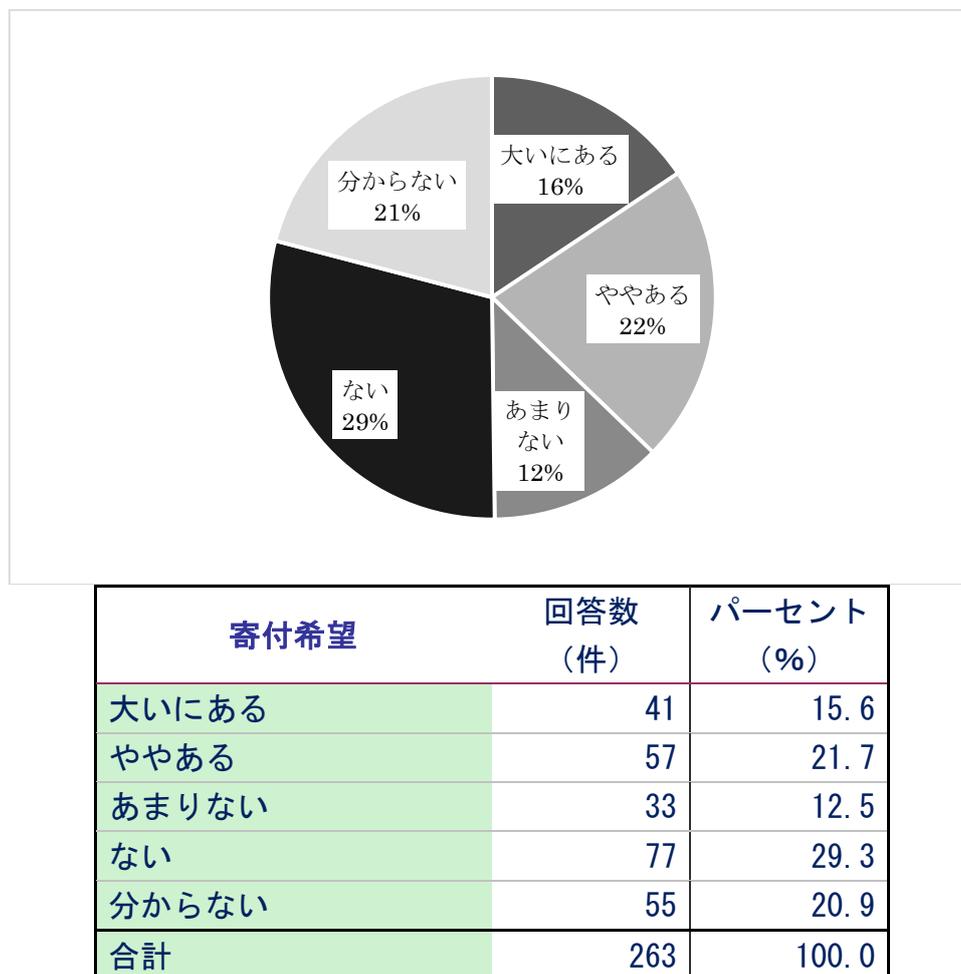


図 3 4 は、町などの公的機関に土地などの財産を寄付する意思の有無を示したグラフである。寄付する意思が「ない」と回答した割合は 29%であり、最も大きい。寄付する意思が「ない」と「あまりない」を合わせた 41%の回答者は、今後も自身の手で財産管理を続けていく、あるいは、財産を売却することを考えている可能性がある。他方で、寄付する意思が「大いにある」と「ややある」を合わせた 38%の回答者は、公的機関に財産を寄付したいという希望を持っていることが分かる。また、回答者の 21%は「分からない」と回答している。ここから、回答者の約 2 割は、財産の公的機関への寄付について積極的な考えを持っていることが分かる。

図 3 5 価値観

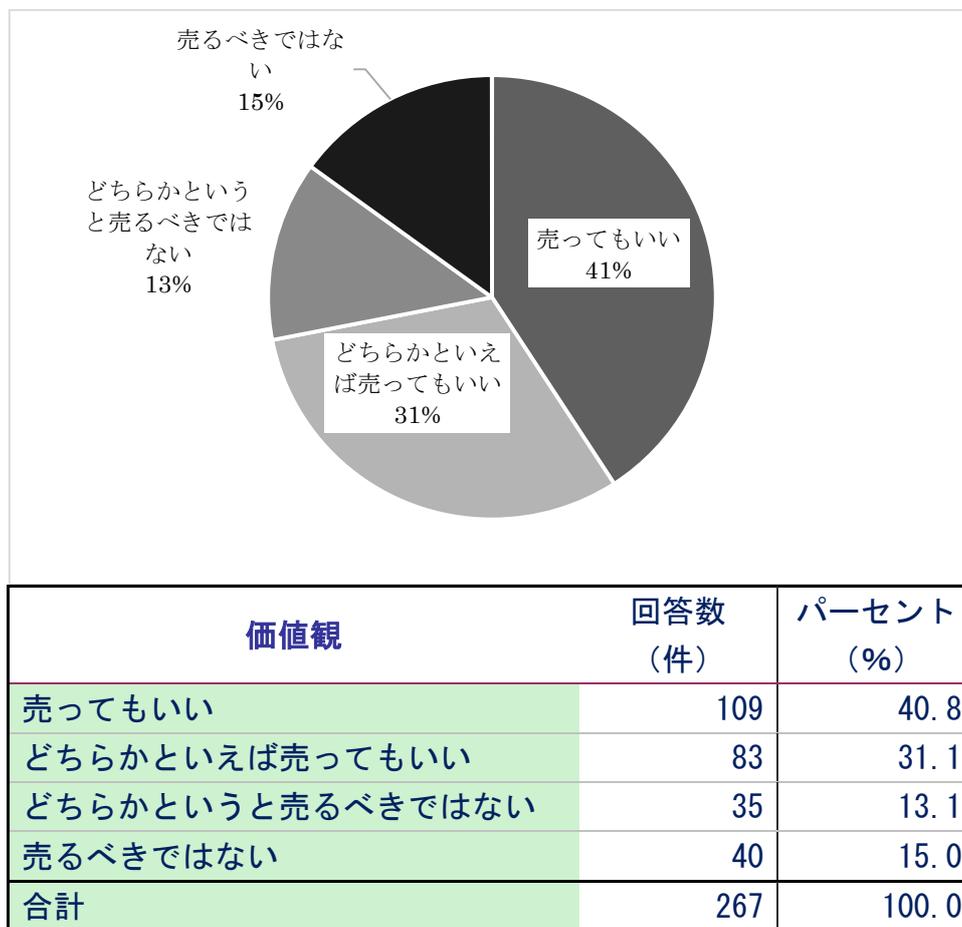
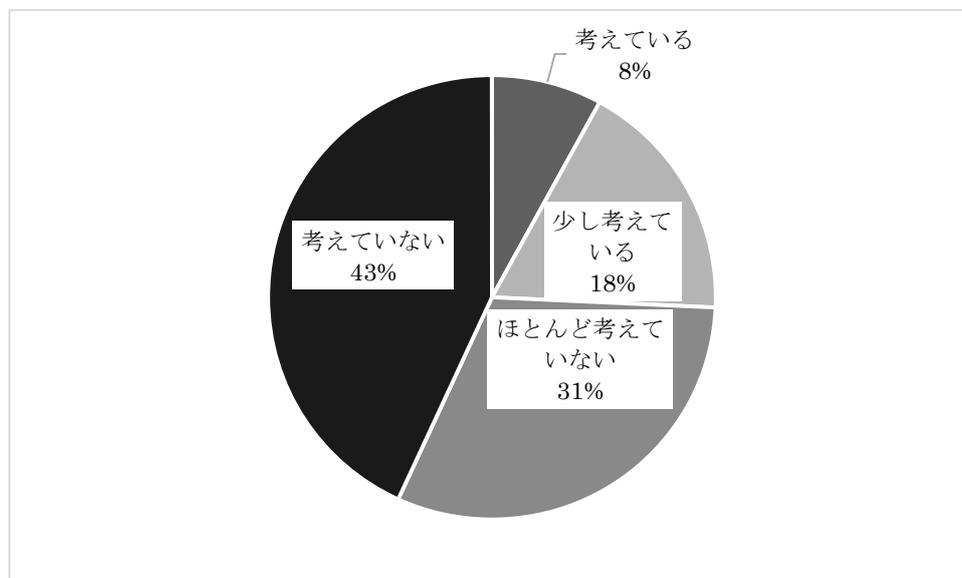


図 3 5 は、土地の所有者が財産に対してどのような考え方をしているのかを示したグラフである。「財産なのだから、売ってもいい」と回答した割合は 41%であり、最も大きい。「売ってもいい」と「どちらかというと売ってもいい」を合わせると、その割合は 72%となる。他方で、「先祖伝来のものだから、自分の代で売るべきでない」、「あまり売るべきでない」と回答した割合をあわせて 28%である。ここから、回答者の約 7割は、土地財産を売買可能な財とみなしているといえる。

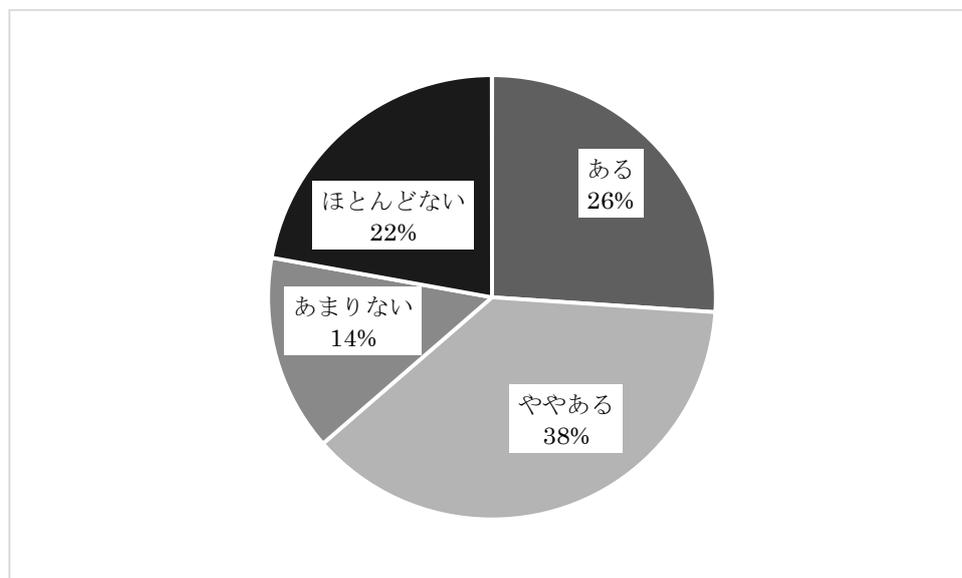
図 3 6 智頭町への U ターン意思



U ターン予定	回答数 (件)	パーセント (%)
考えている	22	8.0
少し考えている	49	17.8
ほとんど考えていない	86	31.2
考えていない	119	43.1
合計	276	100.0

図 3 6 は、智頭町に U ターンする意思の有無を示したグラフである。最も多い回答は、U ターンを「考えていない」(43%) である。「考えていない」と「ほとんど考えていない」を合わせると、その割合は 74% となる。他方で、U ターンを「考えている」と「少し考えている」を合わせると、その割合は 26% となる。ここから、回答者の約 3 割が智頭町への U ターンを考えていることが分かる。

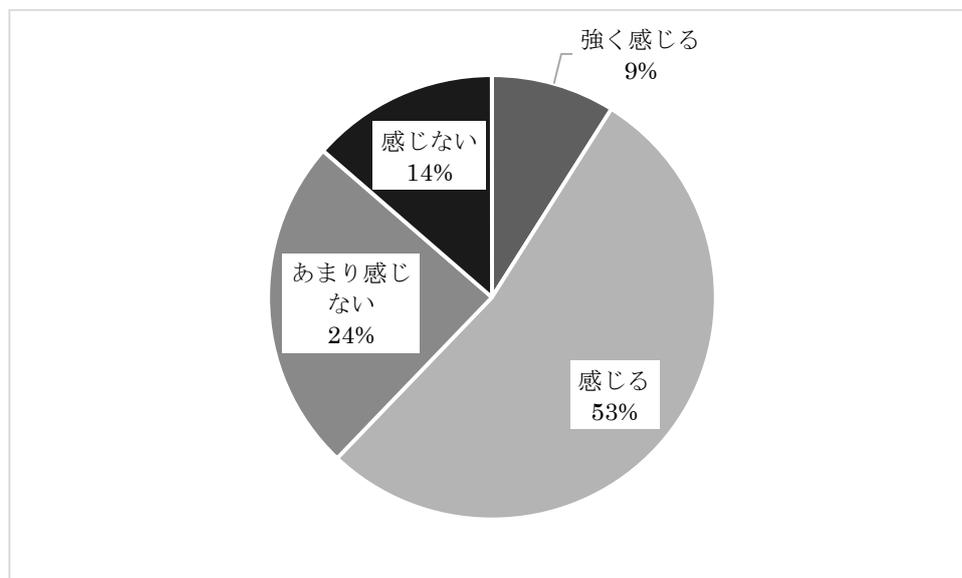
図 3 7 智頭町との交流



智頭町との交流	回答数 (件)	パーセント (%)
ある	73	26.1
ややある	105	37.5
あまりない	40	14.3
ほとんどない	62	22.1
合計	280	100.0

図 3 7 は、智頭町にお住まいの方々との交流の有無を示したグラフである。最も多い回答は、交流が「ややある」(38%) である。交流が「ある」、「ややある」を合わせた 64% の回答者は智頭町との交流があることになる。他方で、交流が「ほとんどない」、「あまりない」を合わせると、その割合は 36% となる。ここから、約 6 割の回答者が町外に住みながらも、智頭町内の人と付き合いを続けていることがわかる。

図 3 8 智頭町への愛着・義務感



愛着・義務感	回答数 (件)	パーセント (%)
強く感じる	25	8.9
感じる	149	53.2
あまり感じない	68	24.3
感じない	38	13.6
合計	280	100.0

図 3 8 は、回答者の智頭町に対する愛着や義務感の有無を示したグラフである。愛着や義務感を「感じる」と回答した割合は 53%であり、最も大きい。愛着や義務感を「強く感じる」と「感じる」と合わせると、その割合は 62%となる。他方で、愛着や義務感を「感じない」、「あまり感じない」を合わせると、その割合は 38%である。ここから、約 6 割の回答者が愛着や義務感を感じていることが分かる。

図 3 9 自治会行事への参加

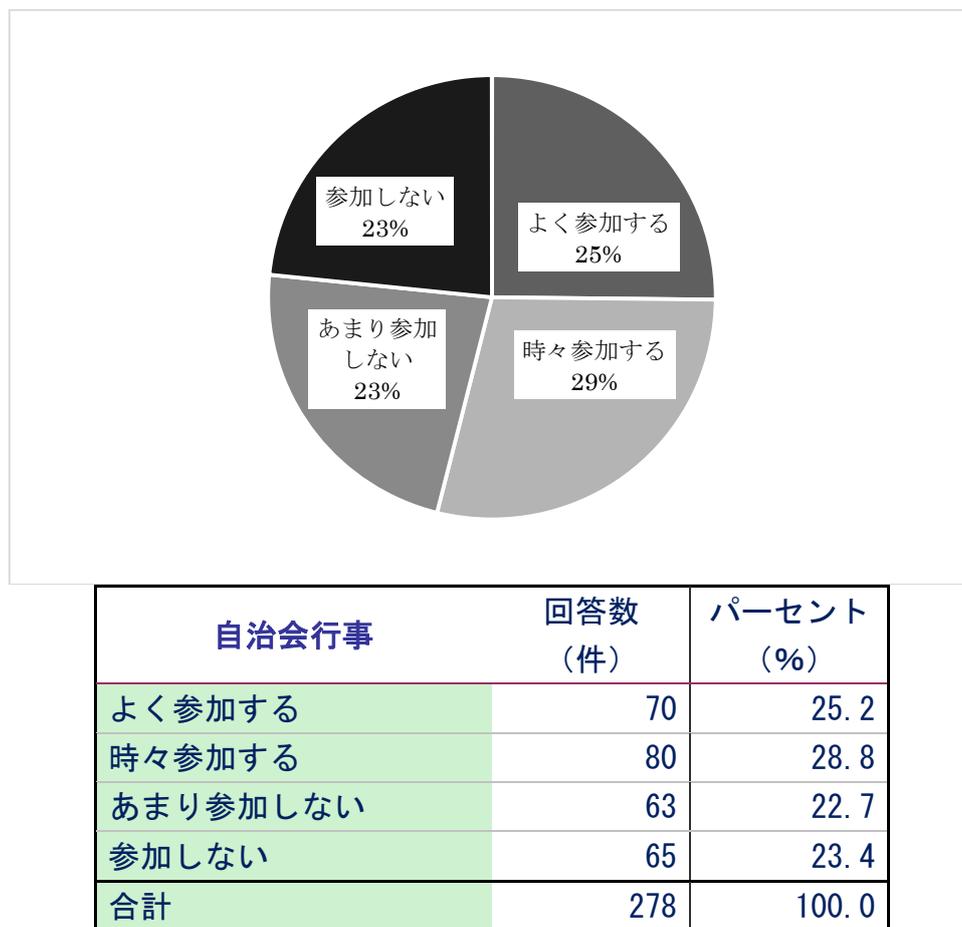


図 3 9 は、現在の居住地での自治会活動への参加の程度を示したグラフである。最も多い回答は、自治会活動に「時々参加する」(29%) である。自治会活動に「よく参加する」、「時々参加する」を合わせると、54%の回答者が自治会活動に参加していることが分かる。他方で、自治会活動に「参加しない」、「あまり参加しない」を合わせると、その割合は 46%である。ここから、回答者の約 5 割が、現在の居住地での自治会活動に参加していることが分かる。

図 4 0 趣味の活動

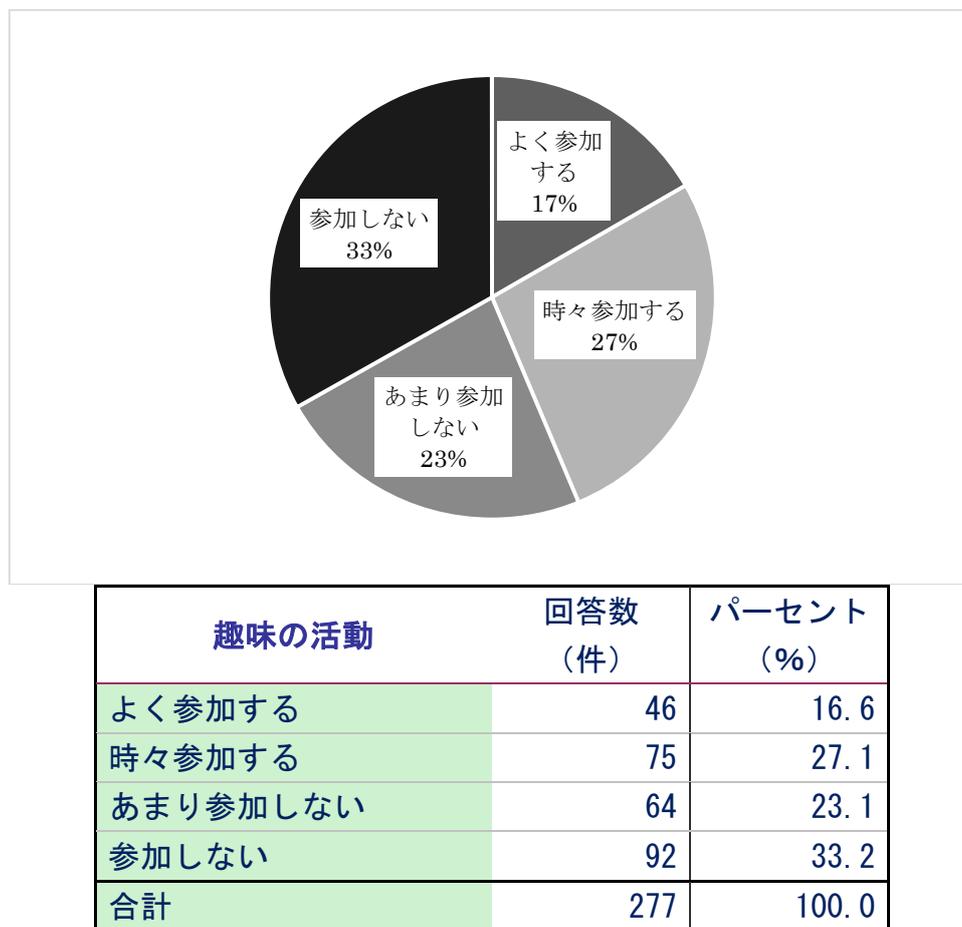


図 4 0 は、趣味の活動（スポーツ・文化・サークル）への参加の程度を示したグラフである。最も多い回答は、サークル活動に「参加しない」（33%）である。サークル活動に「参加しない」と「あまり参加しない」を合わせると、その割合は 56%となる。他方で、サークル活動に「よく参加する」、「時々参加する」を合わせると、その割合は 44%となる。ここから、半数近くの回答者は、サークル活動に参加していることが分かる。

図 4 1 ボランティア活動への参加

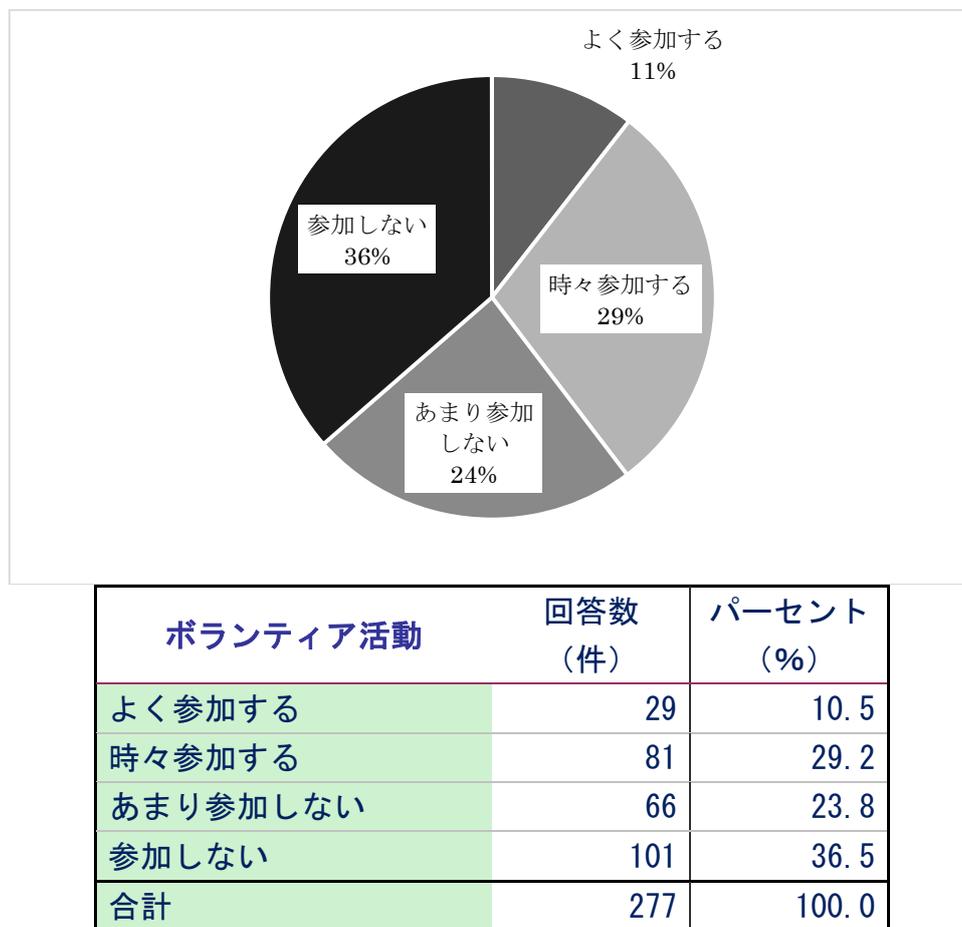


図 4 1 は、ボランティア活動（福祉、環境保護など）への参加の程度を示したグラフである。最も多い回答は、ボランティア活動に「参加しない」（36%）である。ボランティア活動に「参加しない」と「あまり参加しない」を合わせると、その割合は 60%となる。他方で、ボランティア活動に「よく参加する」と「時々参加する」を合わせると、その割合は 40%となる。